

○基本計画の名称：姫路市中心市街地活性化基本計画

○作成主体：兵庫県姫路市

○計画期間：平成27年4月から平成32年3月まで（5年）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

〔1〕姫路市の概要

（1）概要

姫路市は、人口約53万人、面積約534km²を擁する中核市であり、人口は兵庫県下で神戸市に次ぐ規模で、面積は神戸市にほぼ匹敵する大きさとなっている。

市域の中心部にわが国で初めて世界文化遺産に登録された姫路城を擁し、戦国時代以降、城下町として今日の発展の基礎を築いてきた。明治初期の一時期には、姫路県、飾磨県の県都となり、その後、周辺市町村との合併を行いながら発展を続け、戦災からの復興や臨海部での工業地帯の形成などにより、常に播磨地域の中核都市としての役割を担い、平成8年4月には中核市に移行した。

また、国際観光都市として、姫路城をはじめ、西の比叡山と呼ばれる書写山円教寺、灘のけんか祭りや名高い播州の秋祭りなどの観光資源によって、国内はもとより海外からの観光客も多い。

その他、臨海部をはじめとする高い技術力を有する産業集積や播磨科学公園都市の母都市であるなど産業都市としての性格も併せ持つ。

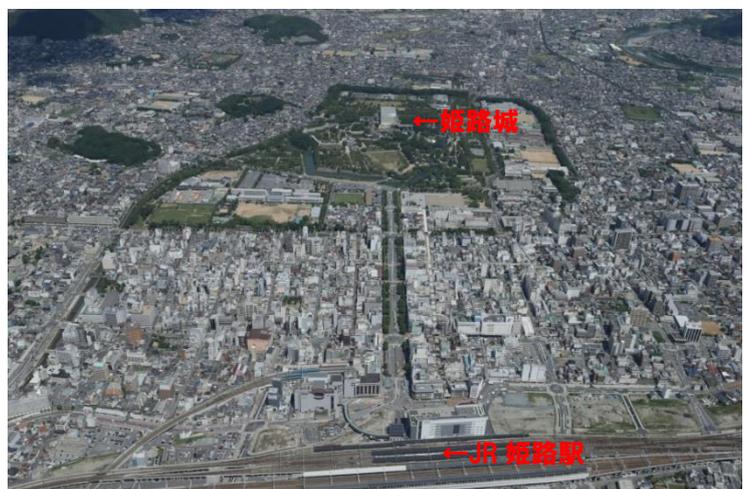
（2）位置・地形等

本市は、兵庫県西部に広がる播磨平野の中央に位置し、神戸市から西へ約50km、岡山市から東へ約70kmの距離にある。東京～大阪～九州を結ぶ国土軸上に位置し、南は播磨灘に面し、中央の平野部を経て市域北部は中国山地の東端にあたる山地になっている。

市内を南北方向に市川、夢前川が縦断し、両河川に挟まれた平野部に主要な都市機能が集積している。国土軸上に位置することから、東西方向にわが国の根幹をなす交通施設である山陽自動車道、中国縦貫自動車道、JR山陽新幹線・山陽本線をはじめ、国道2号などが市域を横断している。



姫路市の位置



姫路市中心部

(3) 沿革

姫路が播磨地域の中心になったのは、大化の改新の後（7世紀）に播磨国の国府が置かれたことに始まり、さらに8世紀中ごろに聖武天皇の勅命で国分寺が建立され、また、広峯神社や増位山随願寺などもこの時代に創建された。

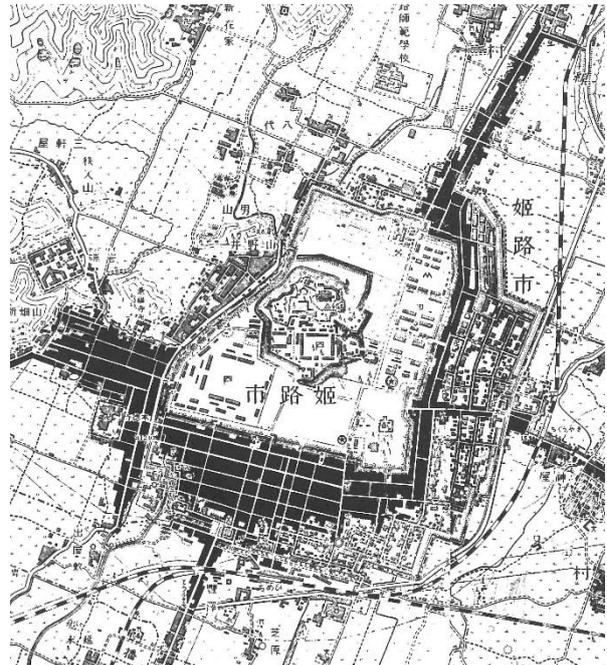
室町時代になって播磨の豪族赤松氏によって姫山に砦が築かれ、その後、羽柴秀吉が三層の天守を持つ姫路城を築城し、関ヶ原の合戦後に、池田輝政が現在の連立式の天守を持つ姫路城を築き上げた。この築城は、戦国期が完全に終息していない中、西日本の外様大名の反乱に備えるとともに大坂城を牽制するために、防御機能を重視した城郭・城下町構造をとったものである。これは、城郭のみではなく城下町全体を防御施設ととらえ、内曲輪、中曲輪、外曲輪を配して城下町全体を堀で囲う「総構」の構造をとったもので、姫路城のほかは、江戸城、大坂城、小田原城、伏見城にしかないといわれている。



江戸時代の姫路城（内曲輪）



姫路城の内曲輪、中曲輪、外曲輪



明治30年代の姫路市中心部

明治期の廃藩置県により設置された姫路県や、その後の飾磨県時代においては県庁所在地となっていたが、明治9年に兵庫県に編入された。明治21年には現在のJR山陽本線である山陽鉄道姫路駅が開業し、翌22年にはわが国の市制施行とともに姫路市が誕生した。その後、周辺市町村との合併を行いながら発展を続けてきたが、太平洋戦争による空襲を受け、姫路城は被害を免れたものの市街地の大部分を焼失する壊滅的な打撃を受けた。

戦後、周辺市町村との合併を繰り返しつつ戦災からの復興を図り、昭和 30 年には戦災復興土地区画整理事業によって大手前通りをはじめとする現在の中心市街地の姿が形成され、昭和 43 年には人口が 40 万人を突破した。その後、昭和 47 年の山陽新幹線開通、平成 5 年 12 月の姫路城世界文化遺産登録、平成 8 年の中核市移行などを経て、平成 18 年 3 月に家島町、夢前町、香寺町、安富町との合併を行い、人口約 53 万人の現在の姫路市となり播磨地域における中枢性がより高まった。

一方、わが国において超少子高齢化や首都圏への機能集中が進行する中で、地方における経済成長や活力の維持が全国的な課題となっている。このような課題認識のもと、本市など周辺地域をけん引する中核性のある都市と近隣市町が連携・協力し、雇用の創出、都市の魅力向上などにより、圏域の活性化を図り、地方から大都市への人の流れを変えることで、「人口減少の防波堤」となる新たな都市制度を国に提言した。これに基づき、平成 26 年度に制度化された「地方中枢拠点都市」制度は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「連携中枢都市」制度に引き継がれたが、平成 27 年度からの制度の本格実施に向けて、本市は国から選定された連携中枢都市のモデル都市として、播磨圏域の市町と関係団体と協力し、播磨圏域経済成長戦略の策定や連携事業の検討を進めているところである。本制度の趣旨からも、県下有数の都市機能を有し、交通の一大結節点である姫路駅、世界文化遺産・姫路城という 2 つの核を有し、播磨地域の経済的、社会的な中心としての役割を果たしている中心市街地の活性化は、本市のみならず播磨圏域の持続的発展に必要な施策といえることができる。

〔2〕前計画（平成21年認定：姫路市中心市街地活性化基本計画）の取組・検証

本市は、姫路駅を中心とするエリア約210haを対象区域に、平成21年12月から平成27年3月までを計画期間とする「姫路市中心市街地活性化基本計画」（以下、「前計画」とする。）を策定した。

ここでは、前計画に引き続き平成27年4月から平成32年3月までを計画期間とする新たな「姫路市中心市街地活性化基本計画」（以下、「新計画」とする。）策定にあたり、前計画の評価・検証を行う。

（1）前計画の概要

前計画では「人々が行き交い未来へ息吹く姫路の城下（まち） ～城と駅を核としたまちの魅力向上による「にぎわい」の創出と「活力」の増大～」を基本テーマに掲げ、この実現に向けて3つの基本方針と2つの目標を設定し、目標に沿った事業展開を実施することにより活性化を図ることとした。



拠点性の向上

- (仮称)総合教育センター整備事業 ●市民活動・ボランティアサポートセンターの開設 ●人権啓発センターの開設

回遊性の向上

- 大手前通り高質空間形成調査 ●大手前通り利活用向上事業 ●姫路公園(大手前公園)改修事業
- 都心環状道路網の整備 ●都市計画道路整備事業 ●JR姫路駅自由通路整備事業
- バス100円運賃(ワンコイン運賃)制度 ●自転車利用環境整備 ●レンタサイクル事業
- 観光バスポート事業 ●「体験型集客イベント～まちなかあるき～」の実施 ●木下大サーカスの開催
- オープンカフェ事業 ●観光ボランティア育成事業

快適・安全・美しいまちづくり

- 「姫路のまちを美しく安全で快適にする条例」の推進

業務集積の促進

- ソフトウェア業等立地促進補助事業

都市魅力向上による
観光集客

都市機能集積による
居住魅力向上

姫路城の再生

- 姫路城大天守保存修理事業

城周辺の魅力向上

- 姫路城と調和した
景観の形成

内外への情報発信

- 外国人向け観光振興事業

【施策区分の色分け】

- 市街地の整備改善
- 都市福利施設の整備
- 街なか居住の推進
- 商業の活性化
- 公共交通機関の利便増進等
- 関連事業

魅力ある商業空間づくり

- 新駅ビル整備事業
- 地下街改修事業
- 商店街アーケード等整備事業
- にぎわい交流施設整備事業
- 西二階町コミュニティホール活用事業
- 活力あるまちなか商店街づくり促進事業
- がんまるまちなか商店街ソフト事業
- 空き店舗対策事業
- 大道芸フェスティバル
- 姫路おでん会館 ●「姫路食博」事業
- 電博堂の運営 ●情報発信強化事業
- 一店逸品事業 ●活性化イベント事業
- ひめじウイントピア事業
- キャスト21コアゾーン(Bブロック)整備事業

公共交通の利便性向上

- JR山陽本線等連続立体交差事業
- JR姫新線輸送改善事業
- 姫路市公共交通バリアフリー化
促進事業(バス)
- 姫路城周辺観光ループバス事業

**新たな姫路の玄関口
(にぎわい空間)創生**

- エントランスゾーン整備事業
(駅前広場、(仮称)駅西交通広場)
- コアゾーン整備事業
- 姫路駅周辺土地区画整理事業

住宅供給促進

- 駅南土地区画整理事業
- 優良建築物等整備事業

快適な都心空間の創出

- 合流式下水道緊急改善事業
- 高齢者バリアフリー道路
特定事業
- 電線類地中化事業
- 南駅前町公園整備事業

**教育、コミュニティ
機能強化**

- 小中一貫教育推進モデル校の
開設
- 城巽公民館整備事業

事業

目標

数値目標

人々が訪れ、集い、回遊するまち

人々が暮らしたく
なるまち

歩行者・自転車通行量

基準値(平成21年度)
74,635人/日

11,165人/日(約15%)増加

目標値(平成26年度)
85,800人/日

空き店舗数

基準値(平成20年度)
40店舗

10店舗(25%)改善

目標値(平成26年度)
30店舗

居住者数

基準値(平成20年度)
8,341人

315人(約3.8%)増加

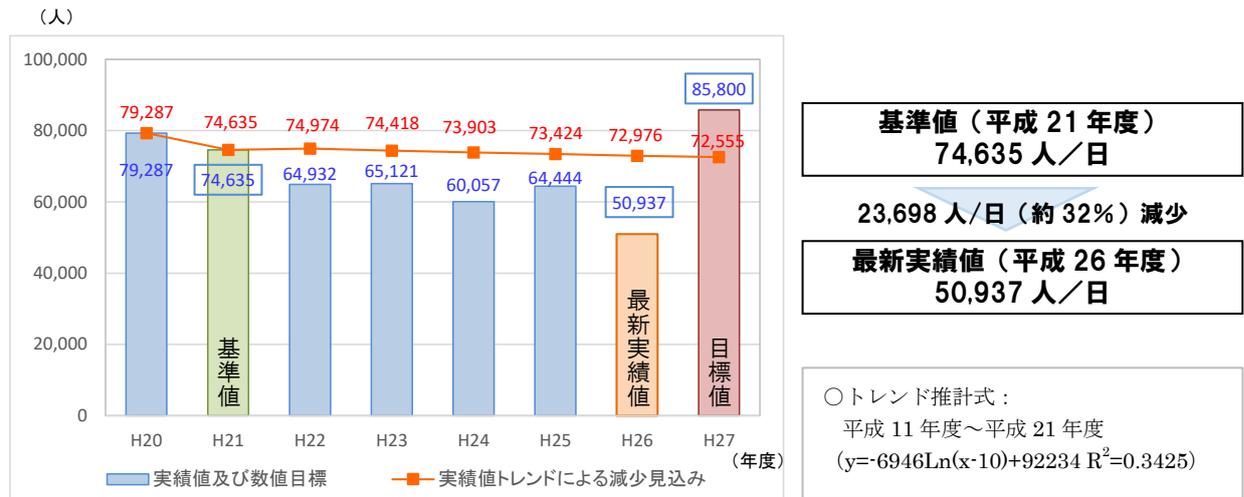
目標値(平成26年度)
8,656人

(2) 数値目標の達成状況

前計画で設定した数値目標の達成状況を以下に概観する。

① 歩行者・自転車通行量

前計画では、基準値 74,635 人/日（平成 21 年度）に対し、目標値を 85,800 人/日（平成 26 年度）と設定し、計画期間満了直後の平成 27 年度通行量調査（平成 27 年 4 月 29 日実施予定）の結果により評価を行うこととしている。評価まで残り 1 年となる平成 26 年度（平成 26 年 4 月 29 日実施）は 50,937 人/日となっており、目標値の 59.4% に留まっている（ただし、平成 26 年度は悪天候による特異値と推察される）。



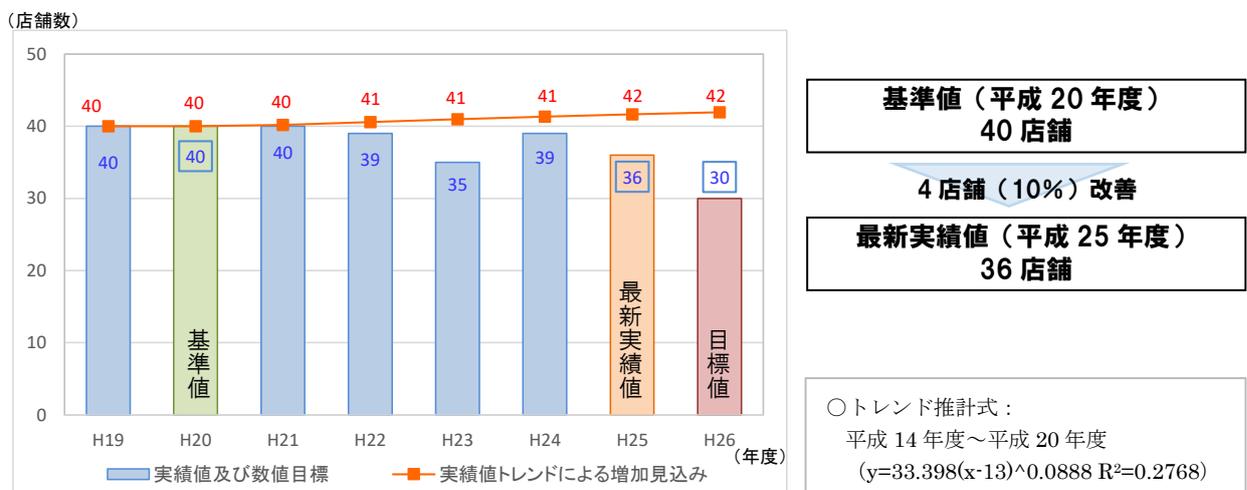
歩行者・自転車通行量の実績値・数値目標

※平成 20 年度（172,287 人：平成 20 年 4 月 29 日）は、「姫路菓子博」開催期間中のため特異値とみなし、平成 19 年度と平成 21 年度の数値の平均を用いる。

※平成 26 年度（50,937 人：平成 26 年 4 月 29 日）は、悪天候のため特異値と推察される。

② 空き店舗数

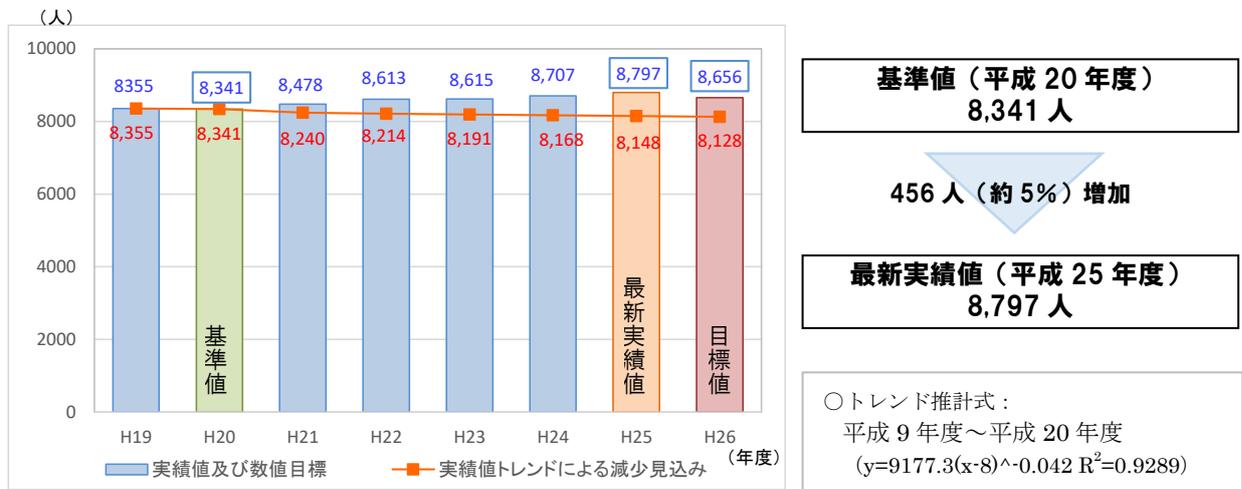
前計画では、基準値 40 店舗（平成 20 年度）に対し、目標値を 30 店舗（平成 26 年度）と設定している。評価まで残り 1 年となる平成 25 年度（平成 26 年 3 月）は 36 店舗となっており、目標値の 40% に留まっている。



空き店舗数の実績値・数値目標

③居住者数

前計画では、基準値 8,341 人（平成 20 年度）に対し、目標値を 8,656 人（平成 26 年度）と設定している。評価まで残り 1 年となる平成 25 年度（平成 26 年 3 月）は 8,797 人となっており、既に目標値を達成している。



居住者数の実績値・数値目標

(3) 事業の実施状況

前計画では市街地の整備改善、都市福利施設の整備、街なか居住の推進、経済活力の向上、公共交通機関の利便増進等を目的とする計 56 事業に取り組むこととしている。このうち、既に完了した事業は 15 事業、実施中は 41 事業であり、中止または未実施の事業はなく、記載事業がすべて実施済となる。

前計画記載事業の主な分類別進捗状況

	記載事業数	進捗状況			
		完了	実施中	中止	未実施
市街地の整備改善	17	4	13	0	0
都市福利施設の整備	6	6	0	0	0
街なか居住の推進	1	0	1	0	0
経済活力の向上	18	2	16	0	0
公共交通機関の利便増進等	14	3	11	0	0
計	56	15	41	0	0

前計画記載事業の進捗状況

分類	事業名	事業主体等	事業期間	事業区分	進捗状況
市街地の整備改善					
1	駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（土地区画整理事業）	姫路市	H19～H26	●	○
2	キャスティ21エントランスゾーン整備事業（駅前広場整備事業）	姫路市 神姫バス(株)	H18～H26	●	○
3	大手前通り高質空間形成調査（地域創造支援事業）	姫路市	H21～H22	○	○
4	大手前通り利活用向上事業	姫路市	H21～	○	○
5	姫路公園（大手前公園）改修事業（公園）	姫路市	H18～H21	●	●
6	JR山陽本線等連続立体交差事業	兵庫県	S63～H22	●	●
7	姫路駅周辺土地区画整理事業	姫路市	H元～H28	●	○
8	キャスティ21エントランスゾーン整備事業 （（仮称）姫路駅西交通広場整備事業）	姫路市	H18～H26	●	○
9	JR姫路駅自由通路整備事業	姫路市	H15～H23	●	○
10	都心環状道路網の整備	姫路市	H9～H30	●	○
11	都市計画道路整備事業（高尾線）	姫路市	H20～H24	●	●
12	都市計画道路整備事業（船場川線）	兵庫県	H17～H24	●	○
13	電線類地中化事業	姫路市	S61～H29	●	○
14	合流式下水道緊急改善事業	姫路市	H16～H45	●	○
15	キャスティ21コアゾーン整備事業	姫路市	H19～	●	○
16	高齢者バリアフリー道路特定事業	姫路市	H20～H27	●	○
17	南駅前町公園整備事業	姫路市	H21	●	●
都市福祉施設の整備					
1	（仮称）姫路市立総合教育センター整備事業	姫路市	H20～H21	●	●
2	小中一貫教育推進モデル校の開設	姫路市	H21～	●	●
3	市民活動・ボランティアサポートセンターの開設	姫路市	H21～	●	●
4	人権啓発センターの開設	姫路市	H20～H21	●	●
5	城巽公民館整備事業	姫路市	H20～H21	●	●
6	にぎわい交流施設整備事業 （姫路商工会議所まちづくりステーション「街の駅」建替）	姫路商工会議所	H21～H25	●	●

※事業区分 ●：ハード事業、○：ソフト事業
 ※進捗状況 ●：完了、○：実施中、▲：未実施

前計画記載事業の進捗状況

分類	事業名	事業主体等	事業期間	事業区分	進捗状況
街なか居住の推進					
1	優良建築物等整備事業	民間	H23～H26	○	○
経済活力の向上					
1	キャストイ21コアゾーン（Bブロック）整備事業	山陽企業(株)	H26～H27	●	○
2	地下街改修事業	(株)姫路駅ビル	H21～H24	●	●
3	空き店舗対策事業	姫路商工会議所	H13～	○	○
4	ひめじウィントピア事業	商店街等	H14～	○	○
5	西二階町コミュニティホール活用事業	西二階町商店街振興組合	H21～	●	○
6	姫路おでん会館	姫路おでん協同組合	H21～	●	○
7	商店街アーケード等整備事業	商店街	H21～H25	●	○
8	新駅ビル整備事業	西日本旅客鉄道(株)	H21～H25	●	●
9	電博堂の運営	NPO法人姫路 コンベンションサポート	H15～	○	○
10	情報発信強化事業	商店街 民間	H16～	○	○
11	一店逸品事業	商店街 民間	H22～	○	○
12	活力あるまちなか商店街づくり促進事業	姫路市	H13～	○	○
13	がんばるまちなか商店街ソフト事業	姫路市	H21～	○	○
14	「姫路食博」事業	姫路食文化協会	H20～H26	○	○
15	オープンカフェ事業	姫路市中心市街地公共空間 活用連絡協議会	H17～	○	○
16	大道芸フェスティバル	商店街 民間	H20～	○	○
17	活性化イベント事業	姫路市 商店街等	H21～	○	○
18	観光ボランティア育成事業	姫路市 姫路商工会議所等	H21～	○	○

※事業区分 ●:ハード事業、○:ソフト事業
 ※進捗状況 ●:完了、○:実施中、▲:未実施

前計画記載事業の進捗状況

分類	事業名	事業主体等	事業期間	事業区分	進捗状況
公共交通機関の利便増進等					
1	姫路城周辺観光ループバス事業	神姫バス㈱	H10～	○	○
2	姫路城大天守保存修理事業	姫路市	H21～H26	●	○
3	ソフトウェア業等立地促進補助事業	姫路市	S63～	○	○
4	JR姫新線輸送改善事業	西日本旅客鉄道㈱	H18～H21	○	●
5	バス100円運賃（ワンコイン運賃）制度	神姫バス㈱	H13～	○	○
6	姫路市公共交通バリアフリー化促進事業（バス）	姫路市	H6～	○	○
7	自転車利用環境整備	姫路市	H20～H22	●	●
8	「姫路のまちを美しく安全で快適にする条例」の推進	姫路市	H20～	○	○
9	レンタサイクル増強事業	姫路市	H10～	○	○
10	姫路城と調和した景観の形成	姫路市	H9～	○	○
11	「体験型集客イベント～まちなかあるき～」の実施	民間	H20～	○	○
12	観光パスポート事業	姫路市	H20～	○	○
13	木下大サーカスの開催	民間	H23	○	●
14	外国人向け観光振興事業	姫路市 民間	H21～	○	○

※事業区分 ●:ハード事業、○:ソフト事業
 ※進捗状況 ●:完了、○:実施中、▲:未実施

(4) 前計画の目標積算事業の評価

前計画で設定した数値目標の目標値積算に関わる事業について、その達成状況について以下に評価・分析を行う。

①歩行者・自転車通行量：目標を達成できない見込みが高い

○駅周辺の新規商業施設買物客の誘引による通行量の増加

【通行量は見込みどおりとなった】

- ・姫路駅周辺での商業等集客施設整備は予定どおりに進捗し、街なかへの誘引が当初見込みどおりであれば、目標を達成している。

○回遊性の向上による通行量の増加

【通行量は見込みどおりとならなかった】

- ・街なかの集客施設等（3施設）のうち、1施設が未開業であるほか、期待していた目玉イベントによる集客効果が期待どおりではなかった。
- ・姫路城大天守保存修理工事（平成26年度完了予定）のため、観光客が見込みの約3割減となった。

○街なか居住の増加による通行量の増加

【通行量は見込みを上回った】

- ・居住者数の増加（既に目標を達成）に伴い、居住者数と街なかでの通行量の関係が当初見込みどおりであれば、目標を達成している。

○その他の要素による通行量の増加

【通行量は見込みを上回った】

- ・新規立地した宿泊施設の年間宿泊者数は当初予想よりも多いことから、宿泊者数と街なかでの通行量の関係が当初見込みどおりであれば、目標を達成している。

○総合的な取組による通行量の増加

【当該事業単体では測定不可である】



姫路駅周辺

写真：姫路市資料



キャッスルガーデン

写真：姫路市資料



姫路駅前地下街

写真：姫路市資料



西二階町商店街「七福座」(七福寄席)

写真：西二階町商店街振興組合 HP より

目標値積算に関わる事業ごとの達成状況

目標積算事業	増加見込み	最新状況
駅周辺の新規商業施設買物客の誘引による通行量の増加	6,902	6,902
回遊性の向上による通行量の増加	5,065	2,782
街なか居住の増加による通行量の増加	936	1,355
その他の要素による通行量の増加	180	192
総合的な取組みによる通行量の増加	725	—
合 計	13,808	11,231

○目標値積算に関わる事業と数値目標値との関係評価

上表のように、目標値積算に関わる事業による効果は見込み値には及ばないものの最新の状況では、約 11,200 人／日の増加を達成していることとなる。しかしながら、歩行者・自転車通行量調査結果では、前計画期間中の通行量は基準値となる平成 21 年度通行量を一度も上回ることがなかった。

目標値を達成できない要因として、姫路城大天守保存修理工事による観光客の大幅な減少、姫路駅周辺整備による街なかへのアクセス阻害など、事業とは直接的に関係性が低い外的影響が大きかったものと考えられる。

また、姫路駅周辺での商業施設整備により増加した来訪者や居住者を街なかまで誘引できなかったことのほか、前計画で事業として取り組むこととしていたソフト事業による街なかでのにぎわいや回遊性の創出が、予定どおりの内容・頻度で実施できなかったことも要因と推察されることから、中心市街地の活性化に向け、このような点の改善が求められる。

②空き店舗数：目標を達成できない見込みが高い

○空き店舗対策事業

【空き店舗数は見込みどおりとならなかった】

・「空き店舗数」に直接関与する前計画事業は空き店舗対策事業のみであり、現在の達成状況から推察すると、同事業の効果は発現されたものの、当初見込みまでには至っていないと思われる。

目標値積算に関わる事業ごとの達成状況

目標積算事業	減少見込み	最新状況
空き店舗対策事業	10	4
合 計	(削減)	(削減)

○目標値積算に関わる事業と数値目標値の関係評価

基準値より改善がみられるが、姫路駅周辺の商店街と比較して、駅から離れた商店街の空き店舗数が多いなど区域内での特徴が現れている。

また、その他の要因として、姫路駅周辺整備等の効果で増加した来訪者を商店街に誘引できなかったことや、ソフト事業などが十分に活かされず、街なかでのにぎわい創出につながらなかったことのほか、商店街そのものの求心力の低下等が推察される。

③居住者数：計画期間を1年残した現時点で目標値を達成する。

○駅南土地地区画整理事業による増分

【当該事業単体では測定不可である】

・事業進捗の遅れにより、本事業による居住者数の増分は現時点でないと推察される。

○街なか居住を推進する事業等の実施による増分

・集合住宅の新規供給（246戸）が当初の見込み（200戸程度）を上回った。

（※平均世帯人員は平成21年度の2.49人／戸から2.38人／戸に減少）

目標値積算に関わる事業ごとの達成状況

目標積算事業	増加見込み	最新状況
駅南土地地区画整理事業による増分	30	0
街なか居住を促進する事業等の実施による増分	498	586
合 計	528	586

○目標値積算に関わる事業と数値目標値の関係評価

民間による集合住宅供給により、居住者数は当初の見込みを上回り、目標を達成している。

このことは、前計画事業による公共交通等の利便性向上をはじめ、コンパクトで生活利便性の高い中心市街地での居住魅力の高まりや地価の下落等が背景にあると推察される。一方で、集合住宅が供給されなかった地区では居住者数が減少しているところも見受けられることから、中心市街地のにぎわいや活力向上に向けて、その源泉となる居住者数の増加に引き続き取り組んでいくことが求められる。

④前計画の検証まとめ

前計画では中心市街地の顔である姫路駅周辺を中心に公共空間や集客施設が整備され、「顔づくり」などに大きな成果をあげた反面、古くからの商店街などが立地するエリアの活性化やにぎわいづくりなどは姫路城大天守保存修理工事が計画期間に重なったこともあり十分な成果をあげることができなかつたと考えられる。

一方、中心市街地への居住者数は堅調な増加傾向を示しており、このことは、中心市街地の都市機能集積や交通環境などの利便性が居住地選択に一定の評価を得た結果であり、本市の中心市街地活性化の可能性を示すものと捉えることができる。

前述の検証を踏まえ、本市では引き続き中心市街地活性化に向け、新計画においては前計画の成果である姫路駅周辺を中心とした都市基盤施設や高質な公共空間などを活用しつつ、街なかのにぎわいや活力創出を大きな目的として、ハード・ソフトの各種事業を官民連携で実施する。

〔3〕 中心市街地の現状分析

（1） 中心市街地の既存ストックの状況分析と有効活用の検討

① 歴史的・文化的資源

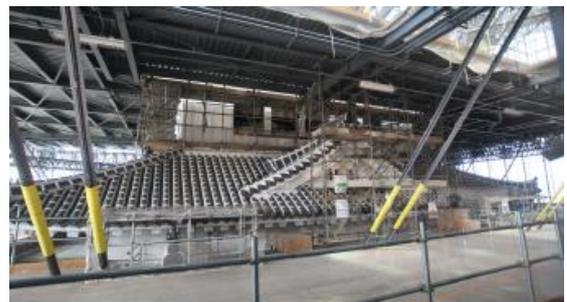
中心市街地には、姫路はもとよりわが国を代表する歴史的・文化的資源である世界文化遺産・姫路城が存在し、登閣者は年間約 88 万人（平成 25 年度）となっている。姫路城は平成 21 年度から平成 26 年度まで姫路城大天守保存修理工事を行っており、登閣者数は工事開始前の年間約 156 万人（平成 21 年度）と比べて大幅に減少しているものの、修理期間中ならではの見学や学習機会の創出等の取組により、回復基調にある。今後、修理が完了する平成 27 年度以降は、登閣者数が大幅に増加するものと考えられる。また、姫路城の周辺には、姫路城西御屋敷跡庭園・好古園や、兵庫県立歴史博物館、姫路市立美術館、姫路市立動物園、日本城郭研究センターなどが立地しており、姫路城周辺の主要観光施設における入込客数は年間約 159 万人（平成 25 年度）となっている。

このほかにも中心市街地とその周辺には、多くの神社仏閣など多様な歴史的・文化的資源が存在し、観光資源としてだけではなく、祭りや年中行事によって地域住民等の交流の場として活用されているものも多く、中心市街地への集客や地域の活性化に寄与している。

このような豊かな歴史的・文化的資源を活用し、観光集客はもとより商業とのタイアップによる新たな観光産業の創出や回遊性の向上を図り、これまで中心市街地を単に通過していた来訪者を街なかに呼び込み、滞留してもらう仕掛けづくりが求められる。姫路観光コンベンションビューローでは、姫路城の城下町であった街なかに当時の風情を偲ばせる魅力が多く残っていることから、16 種類の街歩きコースを開発し、観光客などに紹介している。また、民間団体が中心となり、観光客が歩きながら地域に根付いた歴史や伝統、文化などに触れ、本市の魅力を随所で体感できるよう多彩な魅力スポットを巡る新たな観光ガイドなどを実施している。



姫路城とその周辺



姫路城大天守保存修理工事

②景観資源

本市では、まちのシンボルであり資産でもある姫路城を中心とした都市景観の保全や良好な景観形成に向けて、昭和 62 年 3 月に「姫路市都市景観条例」を制定した。その後、平成 17 年 6 月の「景観法」の全面施行により、法的な裏づけが付与されたことを受けて、平成 19 年に「姫路市景観計画」を策定し、平成 20 年 4 月 1 日より施行した。

景観計画の策定によって、これまで条例に規定していた大手前通り等の 3 つの道路沿道地区に加え、姫路駅北駅前広場地区を都市景観形成地区に追加指定したほか、姫路城周辺を新たに「風景形成地域」に位置付け、建築物や工作物の新築・増築等に対して、色彩や形態・意匠に関わる基準が厳格化されることとなった。

このような取組を積極的に推進し、美しい都市景観を後世に継承しながら、住み・訪れて気持ちの良いまちづくりを進めていく。



中濠通り地区



大手前通り地区



姫路駅北駅前広場地区



駅南大路地区

姫路市景観計画における都市景観形成地区と姫路城周辺風景形成地域

③社会資本

本市の中心市街地は、かつて姫路城の曲輪内に位置したことから、古くから基盤の目状に道路が整備されていた。しかしながら、太平洋戦争による戦災で大部分の市街地が焼失し、昭和 20 年代の大規模な戦災復興土地区画整理事業によって現在の姿となった。同事業によって、当時としては先進的な広幅員街路である大手前通りが整備された。大手前通りは、「日本の道百選」にも選出され、今日もなお本市のシンボルロードとしての役割を担っている。また、JR 山陽本線南側では、同じく土地区画整理事業によって駅南大路の整備をはじめとして整然とした街区が形成され、近代的なまちなみを呈している。

しかしながら、これらの街路については、沿道は業務機能などを中心とした利用がなされていることから、にぎわいの点では必ずしも中心的な役割を果たしているとはいえず、今後、さらなる景観・環境面での施策とあわせて、沿道への商業・交流機能等の立地を促進するなどの施策の展開が望まれる。

中心市街地内の公園は、土地区画整理事業等によって計画的に配置・整備されているものの、周辺居住者が多くないことなどから、利用者は概して少ない。

公共交通は、本市の中心駅となる JR 姫路駅及び山陽電鉄姫路駅が存在し、市周辺部や他都市からの玄関口となっている。中心市街地内の移動は神姫バスが中心となるが、バスの利用者数は近年横ばいである。このため、JR とバスの連絡定期券などに加え、姫路駅を中心とした 1km 圏内での路線バス「100 円運賃制度」、100 円で乗車できる「姫路城周辺観光ループバス」の運行などを実施し、利用促進を図っている。

また、鉄道とバスの交通結節点となる姫路駅北口では、JR 姫路駅との乗換え利便性が良好ではなかったが、前計画での JR 山陽本線等連続立体交差事業、姫路駅周辺土地区画整理事業により、南北の一体利用が図られるとともに公共交通によるアクセス性や利便性が向上した。また、おもてなし空間としての役割を果たす姫路駅北駅前広場（キャッスルガーデン・芝生広場）の創出、大手前通り（十二所前線以南）の再整備などによって、市民のにぎわいや活性化に向けた活動の場が整いつつある。既に、こうして創出された高質なストックでは、市民レベルでの自主的なまちづくりへの参加や街なかの活性化を考えようとする動きが始まっている。今後はこうした取組をさらに盛り上げていくことが、中心市街地の活性化につながるものと考えられる。



姫路駅北駅前広場（芝生広場）



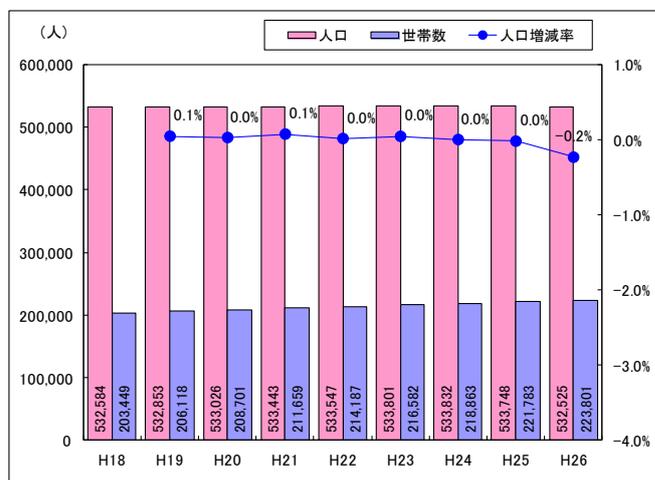
市民レベルでの自主的なまちづくりへの参加
（姫路駅北駅前広場活用連絡協議会）

写真：姫路市資料

④産業資源

本市では、長い歴史を経て多くの地場産業・伝統工芸が形成され、皮革、乾麺、鎖、ボルト・ナット、菓子、明珍火箸などが特に有名であるが、主な生産拠点は中心市街地外となっている。

中心市街地とその外縁部には、播磨地域の中核都市として業務機能が集積し、信用金庫3社の本店をはじめ大手企業の支店・営業所等、全国紙各紙やNHKなどの支局が置かれている。また、近年では、本市の西に位置するたつの市、上郡町、佐用町で整備が進む播磨科学公園都市の母都市として、先端科学技術に関連する産業集積を進めている。臨海部をはじめとする産業や播磨科学公園都市の研究開発機能の集積を背景に、キャストィ21イベントゾーンで展示や交流機能施設の具体化が検討されている。



姫路市の人口・世帯数と人口増減率（各年3月末）

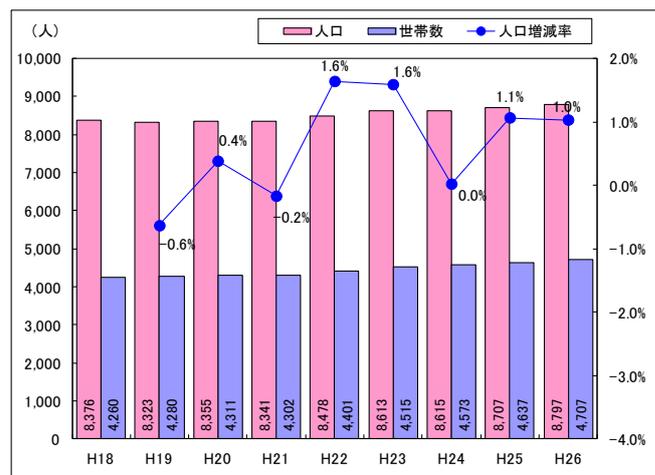
(2)地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

①人口動態に関する状況

1)人口がわずかに増加する中心市街地

本市の人口（3月末）は、平成18年から平成26年にかけてほぼ横ばいで推移している。一方、中心市街地の人口は、わずかではあるものの増加傾向にあり、平成26年の人口は平成18年に比べ5.0%増加している。

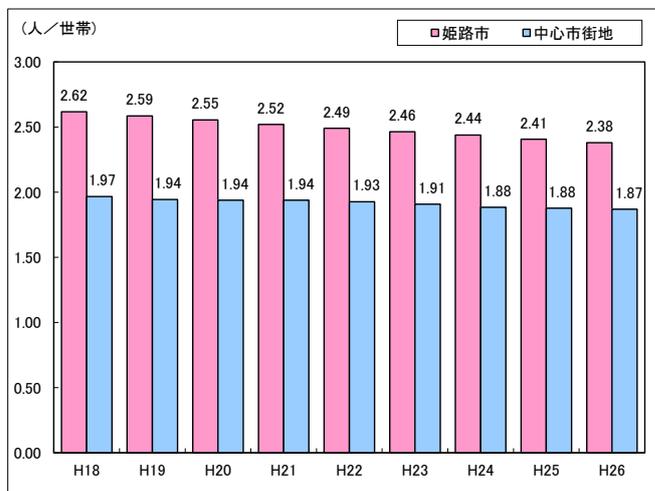
世帯数は、本市、中心市街地ともに増加傾向にあり、平成18年から平成26年の間に、それぞれ10%、10.5%増となっている。



中心市街地の人口・世帯数と人口増減率（各年3月末）

2)世帯小規模化が進展する中心市街地

世帯人員（3月末）は、本市、中心市街地ともに平成18年から平成26年にかけて毎年減少しており、平成26年3月末においては、本市の2.38人/世帯に対して中心市街地は1.87人/世帯であり、世帯の小規模化が進展している。



姫路市と中心市街地の世帯人員（各年3月末）

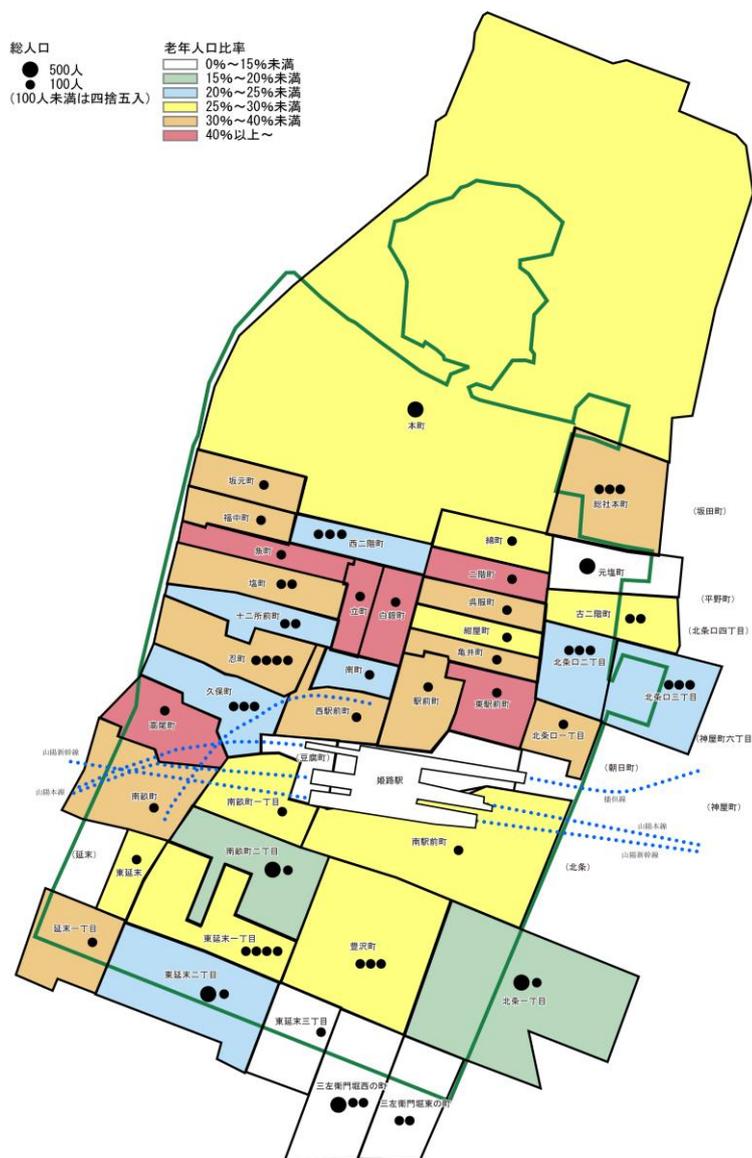
資料：姫路市統計要覧（町別住民基本台帳登録人口）

3) 本市全体と比較して高齢者人口比率が高い中心市街地

本市の高齢者人口（65歳以上）は増加傾向にあるのに対して、中心市街地ではほぼ横ばい状態で推移している。

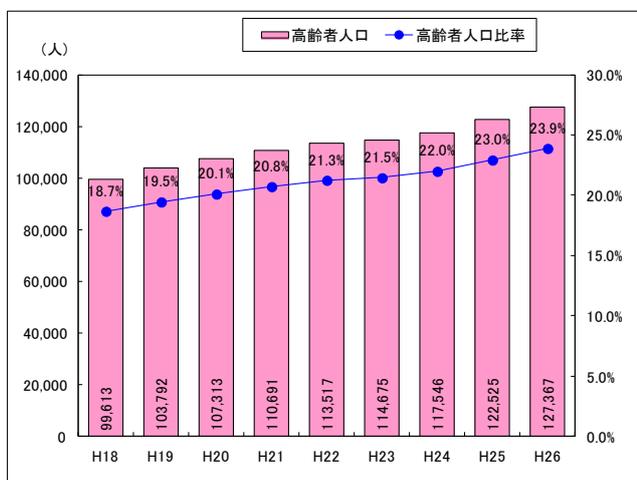
一方、本市の高齢者人口比率（3月末）は、市全体が平成18年の18.7%から平成26年には23.9%に達するなど、超高齢社会（高齢者人口比率21%以上）を迎えているのに対し、中心市街地ではこれを上回る24~25%程度で推移するなど、より高齢化が進行している。

中心市街地の高齢者人口比率を町別にみると、JR姫路駅北側に広がる古くからの商業・業務地での比率が総じて高く、同駅南側や北東周縁部では低くなっており、中心市街地内でも地区により異なる性格を有していることがわかる。

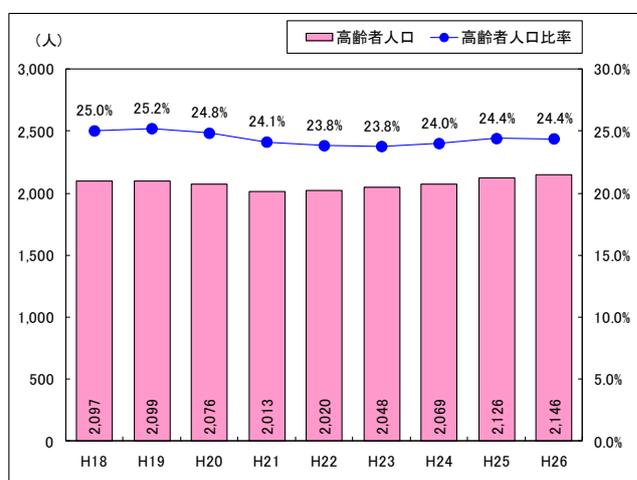


町別の高齢者人口比率（平成26年3月末）

資料：姫路市統計要覧（町別住民基本台帳登録人口）



姫路市の高齢者人口と同比率（各年3月末）



中心市街地の高齢者人口と同比率（各年3月末）

資料：姫路市統計要覧（町別住民基本台帳登録人口）

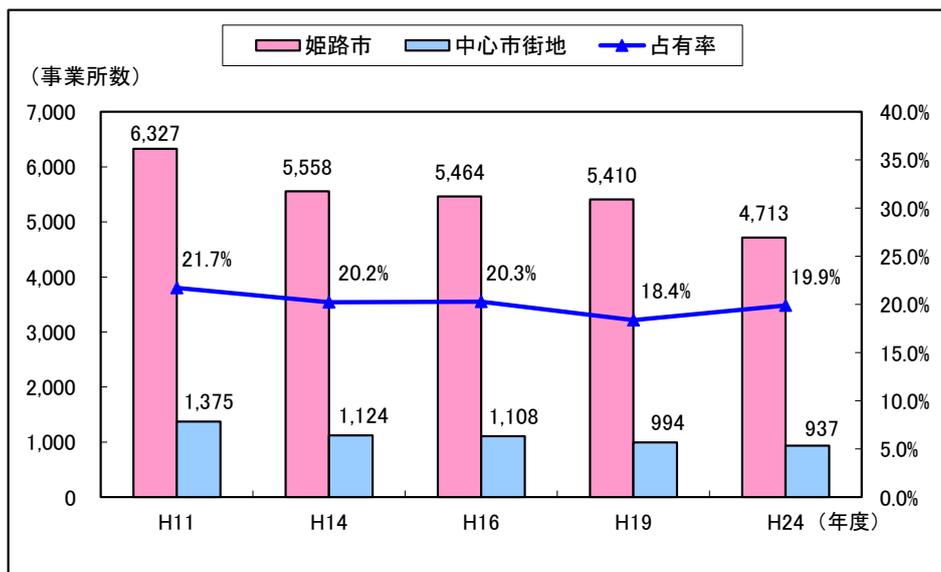
②商業に関する状況

1) 本市全体と同様に、中心市街地でも厳しい商業指標

小売業の事業所数は、本市、中心市街地ともに平成 11 年度から減少傾向が続いているが、中心市街地の方が減少の割合は低い。

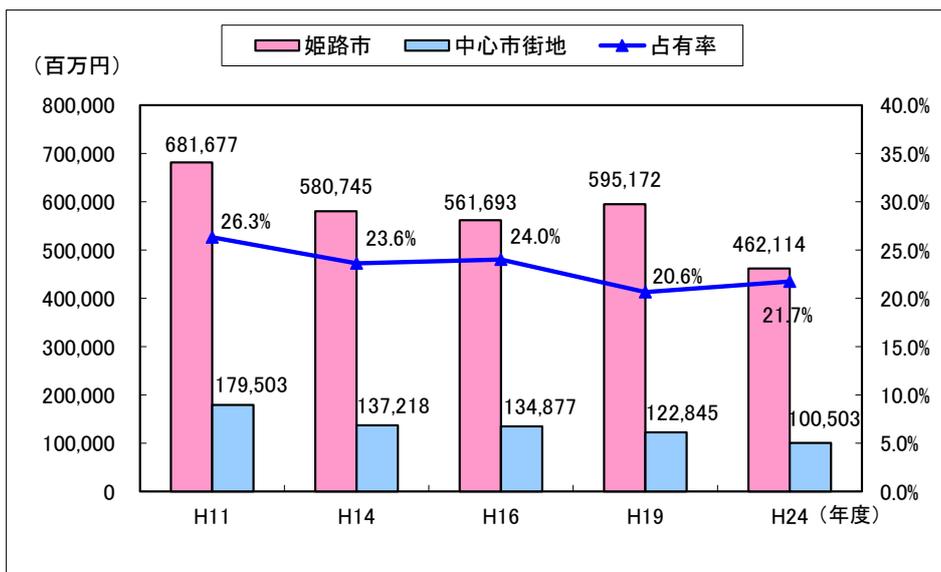
年間商品販売額も同様に減少傾向にあったが、本市では平成 19 年度に増加に転じた後、平成 24 年度には再び減少している。一方、中心市街地では、年間商品販売額の減少傾向は続いているものの、占有率についてはほぼ横ばいで推移している。

中心市街地の本市に対する占有率は、事業所数（平成 24 年度）で 19.9%、年間商品販売額（平成 24 年度）で 21.7%となっている。



小売業の事業所数と中心市街地占有率

資料：商業統計調査（平成 11～19 年度）、経済センサス（平成 24 年度）



小売業の年間商品販売額と中心市街地占有率

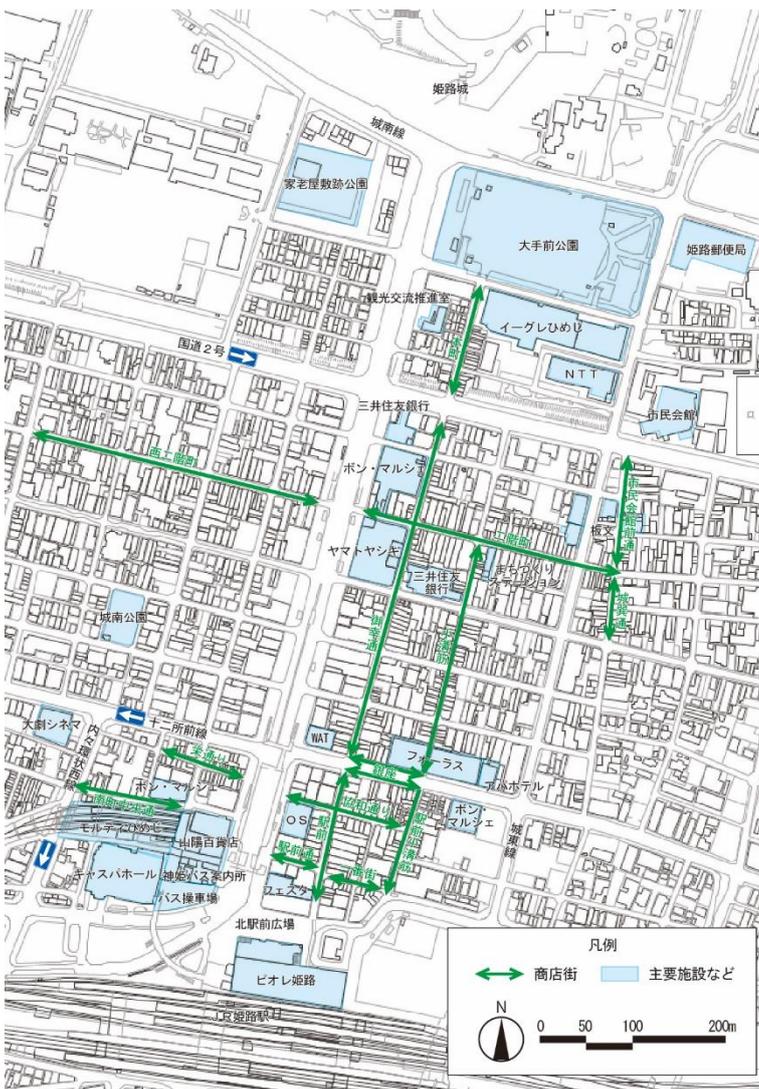
資料：商業統計調査（平成 11～19 年度）、経済センサス（平成 24 年度）

2) 空き店舗数は一時期に比べ減少し、現在は横ばい

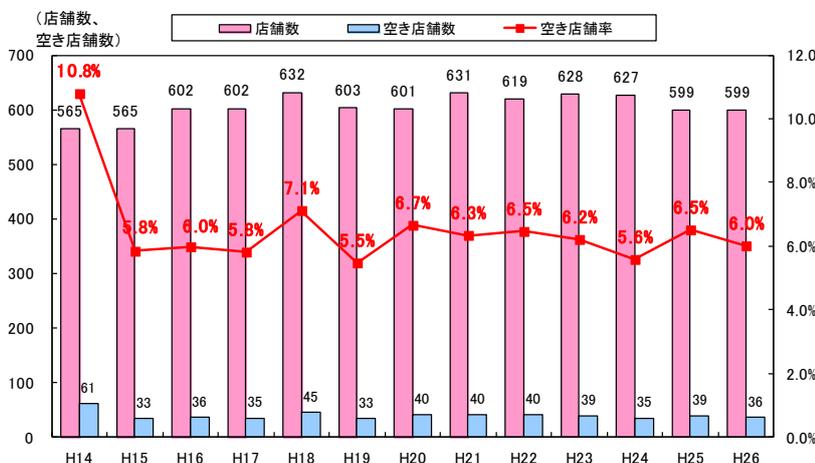
中心市街地内にある商店街の空き店舗数は、平成14年3月に61店舗であったが、平成15年3月以降は概ね30店舗台半ばで推移してきた。平成20～23年は空き店舗数がやや増加し、40店舗前後であったが、前計画実施以降は40店舗以下で推移している。

また、商店街の店舗数に占める割合は、平成15年以降、5～7%で推移している。

これらの空き店舗数の改善は姫路商工会議所等によって実施された空き店舗対策事業の効果によるものと考えられる。



姫路市中心市街地商店街位置図



中心市街地商店街における店舗数と空き店舗数（各年3月末）

商店街名	空き店舗数
本町商店街	1
西二階町商店街	9
二階町商店街	5
姫路御幸通商店街	3
小溝筋商店街	2
姫路銀座商店街	1
姫路駅前商店街	1
姫路駅前小溝筋商店街	1
姫路駅前協和通り商店会	1
姫路駅前一番街商店街	0
姫路駅前通商店会	1
栄通り商店会	4
南町中央通商店街	0
市民会館前通り振興会	2
城巽通商店街	5
合計	36

商店街別の空き店舗数（平成26年3月末）

資料：店舗数は兵庫県団体名簿など、空き店舗数は姫路商工会議所・姫路市調査

3) 中心市街地への大規模小売店舗の実質的な新規立地は長年ない反面、郊外では活発な出店が続く

平成 26 年 7 月現在、中心市街地には大規模小売店舗（店舗面積 1,000 ㎡以上）が 14 店舗ある。

1,000 ㎡程度の規模を除けば古くから立地している店舗が多く、比較的新しい姫路フォーラスでも昭和 46 年の出店であった。平成 17 年 5 月にはボンマルシェが出店したが、これは平成 14 年 1 月のダイエー閉鎖後の跡地に進出した姫路ひろめ市場が平成 16 年 10 月に閉鎖となったところに出店したものである。

このように中心市街地では、長年大規模小売店舗の実質的な新規立地がなかったが、平成 20 年 12 月にプリエ姫路が JR 姫路駅高架下に新規出店したのを始めとして、以降、平成 23 年 2 月にイオンタウン姫路、平成 25 年 4 月にピオレ姫路が出店するなど、姫路駅周辺の再開発に伴う大規模小売店舗の立地が進展している。

	店舗名称	業態	店舗面積(㎡)	開店日
1	ヤマトヤシキ姫路店	百貨店	17,051	S22.3
2	山陽百貨店	百貨店	27,488	S28.7
3	銀ビルストア(ボンマルシェ)姫路店	スーパー	2,990	S31.5
4	板文インテリアセンター	家具	1,469	S34
5	姫路フォーラス	専門店	14,652	S46.6
6	むつみ家具	家具	2,980	S47
7	板文婚礼家具センター本店	家具	1,132	S47.3
8	洋服の青山 姫路店	紳士服	1,096	S54.10
9	板文ブライダルセンター	家具	1,484	H3.9
10	板文ハウジングセンター	家具	1,546	H7.12
11	ボンマルシェ大手前店(スクエアビル)	スーパー・本・CD	2,988	H17.5
12	プリエ姫路	ショッピングセンター	5,613	H20.12
13	イオンタウン姫路	ショッピングセンター	13,007	H23.2
14	ピオレ姫路	ショッピングセンター	13,172	H25.4
	合計	—	106,668	—

中心市街地における大規模小売店舗と開店時期

資料：大規模店舗一覧表【大店舗法・大店立地法届出】(1,000 ㎡以上) (平成 26 年 7 月現在)

	件数	比率	店舗面積 (㎡)	比率
姫路市	100	100.0%	496,189	100.0%
中心市街地	14	14.0%	106,668	21.5%

姫路市と中心市街地の大規模小売店舗数と店舗面積

資料：大規模店舗一覧表【大店舗法・大店立地法届出】(1,000 ㎡以上) (平成 26 年 7 月現在)

[参考：前計画時点]

	件数	比率	店舗面積 (㎡)	比率
姫路市	82	100.0%	431,324	100.0%
中心市街地	13	15.8%	83,947	19.4%

姫路市と中心市街地の大規模小売店舗数と店舗面積

資料：大規模小売店舗立地法届出 (平成 21 年 3 月現在)

一方、本市及び周辺においては、平成 12 年 6 月の「大規模小売店舗立地法」施行後、数多くの大規模小売店舗が立地しており、店舗面積 10,000 m²以上の大型店が大手資本などによって相次いで出店している。平成 21 年 1 月以降、周辺地域には閉鎖後の再出店を除き大型店の新規立地はなかったが、前述のとおり中心市街地では新たに 2 店舗が立地するなど、姫路駅周辺再開発を契機とした大型店の集積が進みつつある。



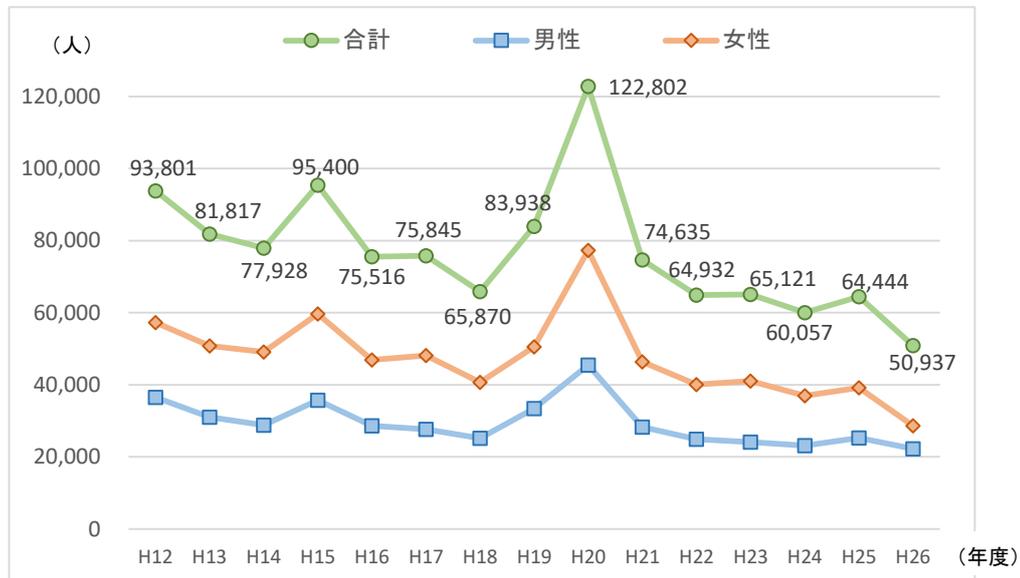
姫路市及び周辺における大規模小売店舗（店舗面積 10,000 m²以上）

資料：大規模店舗一覧表【大店舗法・大店立地法届出】(1,000 m²以上) (平成 26 年 7 月現在)
 周辺は、全国大型小売店総覧 2014 (平成 25 年 6 月現在)

4) 中心市街地の歩行者・自転車通行量は漸減傾向

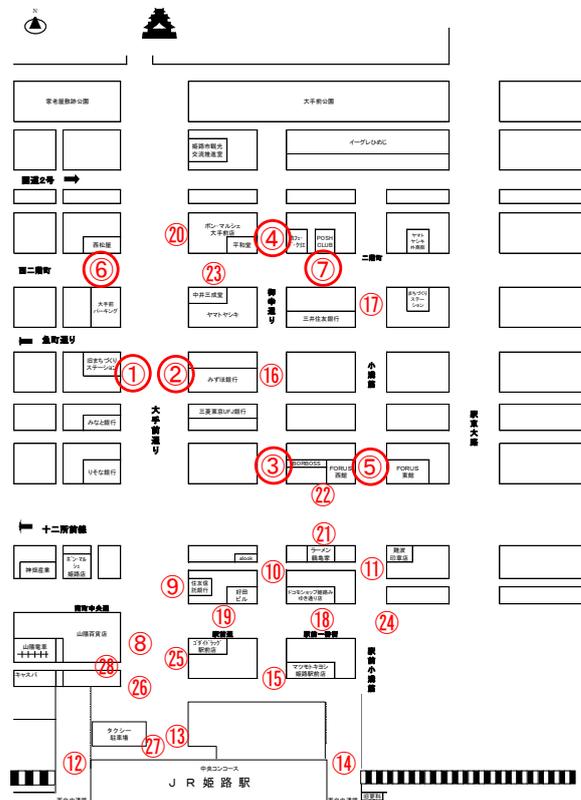
JR 姫路駅北側の中心市街地における歩行者・自転車通行量は、平成 15 年度から平成 18 年度にかけて大きく減少し、平成 19 年度には増加に転じたものの、以降、平成 26 年度にかけて再び減少傾向となっている。

また、姫路駅周辺の新駅ビル（ピオレ姫路）やキャッスルガーデンなどの施設の完成後（平成 25 年度）には増加している。



中心市街地商店街における歩行者・自転車通行量
(各年 4 月 29 日調査 下図 7 地点 (①~⑦) の合計)

※平成 20 年度 (122,802 人：平成 20 年 4 月 29 日) は、大規模イベント開催のため特異値
※平成 26 年度 (50,937 人：平成 26 年 4 月 29 日) は、悪天候のため特異値



歩行者・自転車通行量調査地点

- ① 大手前通り・西(旧まちづくりステーション東)
- ② 大手前通り・東(みずほ銀行西)
- ③ 姫路御幸通商店街(BORBOSS 前)
- ④ 姫路御幸通商店街(カフェ・ド・クリエ西)
- ⑤ 小溝筋商店街(FORUS 西館東)
- ⑥ 西二階町商店街(西松屋南)
- ⑦ 二階町商店街(POSH CLUB 前)
- ⑧ 大手前通り・西(山陽百貨店前)
- ⑨ 大手前通り・東(三井住友信託銀行前)
- ⑩ 姫路駅前商店街(alook 前)
- ⑪ 姫路駅前小溝筋商店街(難波印章店前)
- ⑫ JR 姫路駅・西自由通路
- ⑬ JR 姫路駅・中央コンコース北側出入口
- ⑭ JR 姫路駅・東自由通路
- ⑮ 姫路駅前商店街(マツモトキヨシ姫路駅前店前)
- ⑯ 姫路御幸通商店街(みずほ銀行東)
- ⑰ 小溝筋商店街(三井住友銀行東)
- ⑱ 姫路駅前一番街商店街(ドコモショップ姫路みゆき通り店南)
- ⑲ 姫路駅前通商店会(コタドラッグ姫路駅前店前)
- ⑳ 大手前通り・東(ボン・マルシェ大手前店西)
- ㉑ 姫路銀座商店街(ラーメン鶴亀家前)
- ㉒ 姫路銀座商店街(FORUS 西館南)
- ㉓ 二階町商店街(ヤマトヤシキ北)
- ㉔ グラン・フェスタ東出入口
- ㉕ グラン・フェスタ大手前東側出入口
- ㉖ グラン・フェスタ大手前西側出入口
- ㉗ グラン・フェスタ中央出入口
- ㉘ 山陽百貨店南

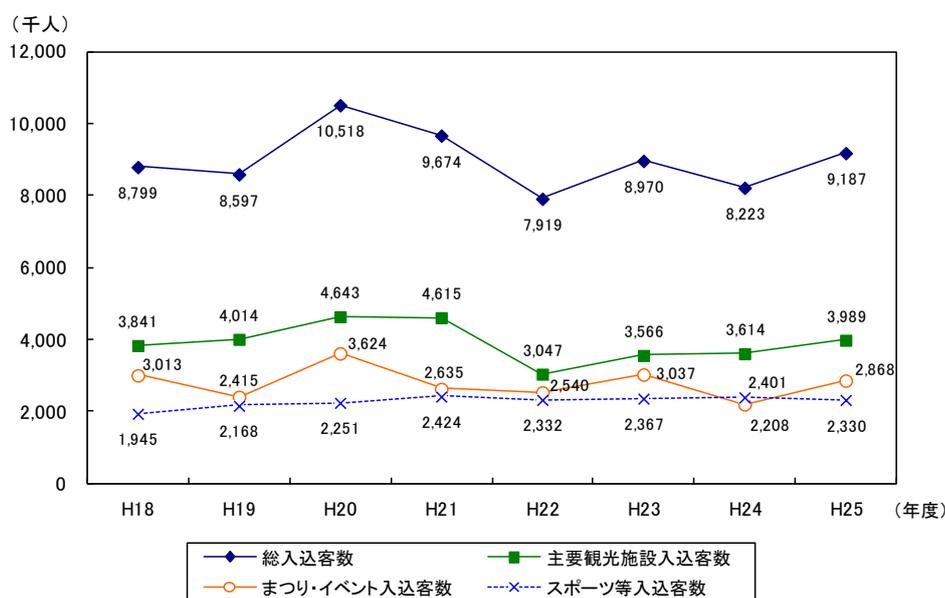
資料：平成 26 年度中心市街地通行量調査

③観光に関する状況

1) 本市の観光目的入込客数の半分弱を中心市街地内の姫路城周辺が占める

本市への近年の観光総入込客数は、年間約 800～1,000 万人台で推移している。平成 25 年度においては、主要観光施設入込客数が約 399 万人であり、うち姫路城周辺地域には約 159 万人（40%）の入込客があった。このうちの 55%にあたる約 88 万人が姫路城の登閣者であり、市内最大の観光集客施設となっている。

なお、姫路城登閣者数及び姫路城周辺の入込客数は、平成 21 年度まで増加傾向にあったが、平成 22 年度に大きく落ち込んでいる。これは、平成 21 年 10 月から始まった姫路城大天守保存修理工事の影響と考えられ、工事見学施設がオープンした平成 23 年度以降には、やや回復している。



姫路市の総入込客数



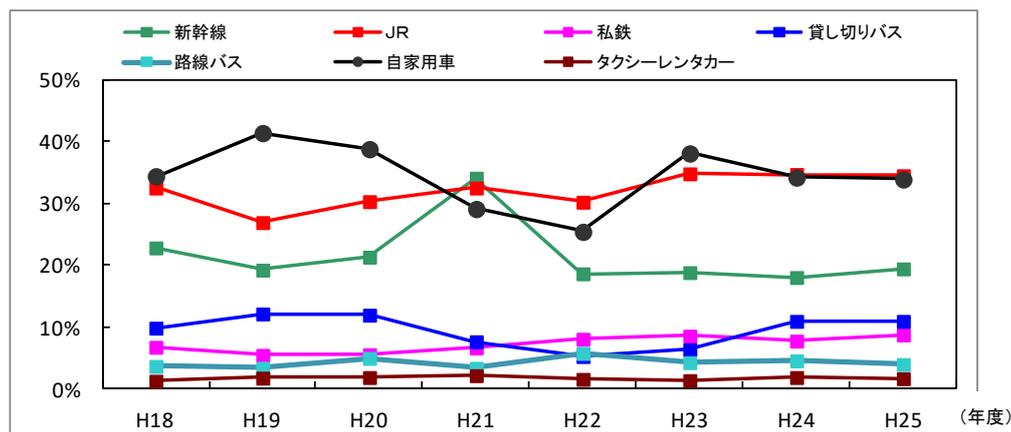
中心市街地に関連する主要観光施設の入込客数

資料：姫路市入込客数、観光・イベントアンケート調査

2) 観光目的で増加する鉄道利用

本市への観光目的来街者の利用交通手段を見ると、鉄道が概ね 55～60%程を占めており、姫路城大天守保存修理工事が始まった平成 21 年度以降、新幹線の利用が減少したものの JR の利用は増加傾向にある。また、自家用車や貸し切りバスは近年、減少傾向にあったが、自家用車は平成 23 年度に、貸し切りバスは平成 24 年度に増加しており、同程度の水準で推移している。

この数値をもとにすると、姫路城周辺地域の観光客の過半数は JR・山陽電鉄姫路駅から中心市街地を経由して目的地まで移動していることとなり、これら観光客のニーズを取り込んだ商業展開を図っていくことが重要となる。



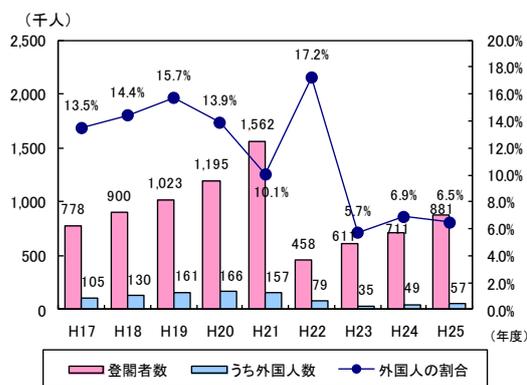
姫路市への観光目的来街者の利用交通手段

資料：姫路市入込客数、観光・イベントアンケート調査

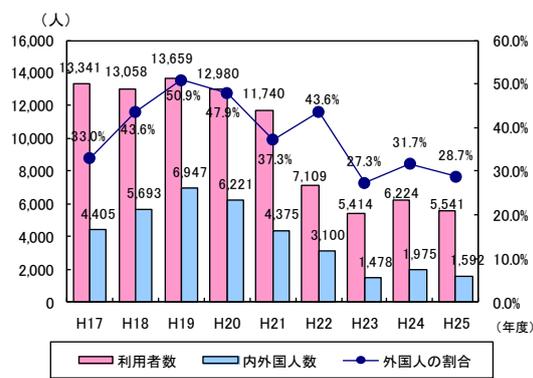
3) 外国人観光客の増加と街なか回遊

平成 5 年に姫路城がわが国初の世界文化遺産に登録されたこと、また、ビジット・ジャパン・キャンペーンやミシュラン社の旅行ガイドで三つ星に選ばれたこともあり、外国人観光客は増加傾向にあったが、姫路城大天守保存修理工事が始まった翌年の平成 22 年度以降減少している。ただし、保存修理工事完了後には、回復するものと考えられる。

観光レンタサイクルの外国人利用者数も保存修理の影響による減少が伺えるが、全利用者数に占める外国人の割合は以前高く、外国人観光客に対応した商業等のあり方も中心市街地活性化の課題と考えられる。



姫路城登壇者数



観光レンタサイクル利用者数

資料：姫路市入込客数、観光・イベントアンケート調査

4) 街なか観光に関する取組

姫路観光コンベンションビューローでは、姫路城の城下町であった街なかに当時の風情を偲ばせる魅力が多く残っていることから、16種類の街歩きコースの開発とマップ作成を行い、観光客などに紹介している。また、姫路城大天守保存修理工事期間中には、民間団体が中心となり、観光客が歩きながら地域に根付いた歴史や伝統、文化などに触れ、本市の魅力が随所で体感できるよう魅力的なスポットを巡る観光ガイドなどを実施している。

よってくだん ひめじ

姫路城の中濠と門跡めぐり

所要時間：約30分

1 中ノ門跡 2 堀門跡 3 中ノ門跡 4 堀門跡 5 中ノ門跡 6 堀門跡 7 中ノ門跡 8 堀門跡 9 中ノ門跡 10 堀門跡

よってくだん ひめじ

まちなかで活躍する熱い人たち

1 588 2 358 3 458 4 558 5 658 6 758 7 858 8 958 9 1058 10 1158 11 1258 12 1358 13 1458 14 1558 15 1658 16 1758 17 1858 18 1958 19 2058 20 2158 21 2258 22 2358 23 2458 24 2558 25 2658 26 2758 27 2858 28 2958 29 3058 31 3158 32 3258 33 3358 34 3458 35 3558 36 3658 37 3758 38 3858 39 3958 40 4058 41 4158 42 4258 43 4358 44 4458 45 4558 46 4758 47 4858 48 4958 49 5058 51 5158 52 5258 53 5358 54 5458 55 5558 56 5658 57 5758 58 5858 59 5958 60 6058 61 6158 62 6258 63 6358 64 6458 65 6558 66 6658 67 6758 68 6858 69 6958 70 7058 71 7158 72 7258 73 7358 74 7458 75 7558 76 7658 77 7758 78 7858 79 7958 80 8058 81 8158 82 8258 83 8358 84 8458 85 8558 86 8658 87 8758 88 8858 89 8958 90 9058 91 9158 92 9258 93 9358 94 9458 95 9558 96 9658 97 9758 98 9858 99 9958 100 10058

よってくだん ひめじ

縁結びご利益めぐり

所要時間：約60分

1 1号神社 2 2号神社 3 3号神社 4 4号神社 5 5号神社 6 6号神社 7 7号神社 8 8号神社 9 9号神社 10 10号神社 11 11号神社 12 12号神社 13 13号神社 14 14号神社 15 15号神社 16 16号神社 17 17号神社 18 18号神社 19 19号神社 20 20号神社 21 21号神社 22 22号神社 23 23号神社 24 24号神社 25 25号神社 26 26号神社 27 27号神社 28 28号神社 29 29号神社 30 30号神社 31 31号神社 32 32号神社 33 33号神社 34 34号神社 35 35号神社 36 36号神社 37 37号神社 38 38号神社 39 39号神社 40 40号神社 41 41号神社 42 42号神社 43 43号神社 44 44号神社 45 45号神社 46 46号神社 47 47号神社 48 48号神社 49 49号神社 50 50号神社 51 51号神社 52 52号神社 53 53号神社 54 54号神社 55 55号神社 56 56号神社 57 57号神社 58 58号神社 59 59号神社 60 60号神社 61 61号神社 62 62号神社 63 63号神社 64 64号神社 65 65号神社 66 66号神社 67 67号神社 68 68号神社 69 69号神社 70 70号神社 71 71号神社 72 72号神社 73 73号神社 74 74号神社 75 75号神社 76 76号神社 77 77号神社 78 78号神社 79 79号神社 80 80号神社 81 81号神社 82 82号神社 83 83号神社 84 84号神社 85 85号神社 86 86号神社 87 87号神社 88 88号神社 89 89号神社 90 90号神社 91 91号神社 92 92号神社 93 93号神社 94 94号神社 95 95号神社 96 96号神社 97 97号神社 98 98号神社 99 99号神社 100 100号神社

よってくだん ひめじ

姫路城中濠と門跡めぐり

1 中ノ門跡 2 堀門跡 3 中ノ門跡 4 堀門跡 5 中ノ門跡 6 堀門跡 7 中ノ門跡 8 堀門跡 9 中ノ門跡 10 堀門跡

1 中ノ門跡 2 堀門跡 3 中ノ門跡 4 堀門跡 5 中ノ門跡 6 堀門跡 7 中ノ門跡 8 堀門跡 9 中ノ門跡 10 堀門跡

よってくだん ひめじ

まちなかで活躍する熱い人たち

1 588 2 358 3 458 4 558 5 658 6 758 7 858 8 958 9 1058 10 1158 11 1258 12 1358 13 1458 14 1558 15 1658 16 1758 17 1858 18 1958 19 2058 20 2158 21 2258 22 2358 23 2458 24 2558 25 2658 26 2758 27 2858 28 2958 29 3058 31 3158 32 3258 33 3358 34 3458 35 3558 36 3658 37 3758 38 3858 39 3958 40 4058 41 4158 42 4258 43 4358 44 4458 45 4558 46 4658 47 4758 48 4858 49 4958 50 5058 51 5158 52 5258 53 5358 54 5458 55 5558 56 5658 57 5758 58 5858 59 5958 60 6058 61 6158 62 6258 63 6358 64 6458 65 6558 66 6658 67 6758 68 6858 69 6958 70 7058 71 7158 72 7258 73 7358 74 7458 75 7558 76 7658 77 7758 78 7858 79 7958 80 8058 81 8158 82 8258 83 8358 84 8458 85 8558 86 8658 87 8758 88 8858 89 8958 90 9058 91 9158 92 9258 93 9358 94 9458 95 9558 96 9658 97 9758 98 9858 99 9958 100 10058

1 588 2 358 3 458 4 558 5 658 6 758 7 858 8 958 9 1058 10 1158 11 1258 12 1358 13 1458 14 1558 15 1658 16 1758 17 1858 18 1958 19 2058 20 2158 21 2258 22 2358 23 2458 24 2558 25 2658 26 2758 27 2858 28 2958 29 3058 31 3158 32 3258 33 3358 34 3458 35 3558 36 3658 37 3758 38 3858 39 3958 40 4058 41 4158 42 4258 43 4358 44 4458 45 4558 46 4658 47 4758 48 4858 49 4958 50 5058 51 5158 52 5258 53 5358 54 5458 55 5558 56 5658 57 5758 58 5858 59 5958 60 6058 61 6158 62 6258 63 6358 64 6458 65 6558 66 6658 67 6758 68 6858 69 6958 70 7058 71 7158 72 7258 73 7358 74 7458 75 7558 76 7658 77 7758 78 7858 79 7958 80 8058 81 8158 82 8258 83 8358 84 8458 85 8558 86 8658 87 8758 88 8858 89 8958 90 9058 91 9158 92 9258 93 9358 94 9458 95 9558 96 9658 97 9758 98 9858 99 9958 100 10058

よってくだん ひめじ

縁結びご利益めぐり

1 1号神社 2 2号神社 3 3号神社 4 4号神社 5 5号神社 6 6号神社 7 7号神社 8 8号神社 9 9号神社 10 10号神社 11 11号神社 12 12号神社 13 13号神社 14 14号神社 15 15号神社 16 16号神社 17 17号神社 18 18号神社 19 19号神社 20 20号神社 21 21号神社 22 22号神社 23 23号神社 24 24号神社 25 25号神社 26 26号神社 27 27号神社 28 28号神社 29 29号神社 30 30号神社 31 31号神社 32 32号神社 33 33号神社 34 34号神社 35 35号神社 36 36号神社 37 37号神社 38 38号神社 39 39号神社 40 40号神社 41 41号神社 42 42号神社 43 43号神社 44 44号神社 45 45号神社 46 46号神社 47 47号神社 48 48号神社 49 49号神社 50 50号神社 51 51号神社 52 52号神社 53 53号神社 54 54号神社 55 55号神社 56 56号神社 57 57号神社 58 58号神社 59 59号神社 60 60号神社 61 61号神社 62 62号神社 63 63号神社 64 64号神社 65 65号神社 66 66号神社 67 67号神社 68 68号神社 69 69号神社 70 70号神社 71 71号神社 72 72号神社 73 73号神社 74 74号神社 75 75号神社 76 76号神社 77 77号神社 78 78号神社 79 79号神社 80 80号神社 81 81号神社 82 82号神社 83 83号神社 84 84号神社 85 85号神社 86 86号神社 87 87号神社 88 88号神社 89 89号神社 90 90号神社 91 91号神社 92 92号神社 93 93号神社 94 94号神社 95 95号神社 96 96号神社 97 97号神社 98 98号神社 99 99号神社 100 100号神社

1 1号神社 2 2号神社 3 3号神社 4 4号神社 5 5号神社 6 6号神社 7 7号神社 8 8号神社 9 9号神社 10 10号神社 11 11号神社 12 12号神社 13 13号神社 14 14号神社 15 15号神社 16 16号神社 17 17号神社 18 18号神社 19 19号神社 20 20号神社 21 21号神社 22 22号神社 23 23号神社 24 24号神社 25 25号神社 26 26号神社 27 27号神社 28 28号神社 29 29号神社 30 30号神社 31 31号神社 32 32号神社 33 33号神社 34 34号神社 35 35号神社 36 36号神社 37 37号神社 38 38号神社 39 39号神社 40 40号神社 41 41号神社 42 42号神社 43 43号神社 44 44号神社 45 45号神社 46 46号神社 47 47号神社 48 48号神社 49 49号神社 50 50号神社 51 51号神社 52 52号神社 53 53号神社 54 54号神社 55 55号神社 56 56号神社 57 57号神社 58 58号神社 59 59号神社 60 60号神社 61 61号神社 62 62号神社 63 63号神社 64 64号神社 65 65号神社 66 66号神社 67 67号神社 68 68号神社 69 69号神社 70 70号神社 71 71号神社 72 72号神社 73 73号神社 74 74号神社 75 75号神社 76 76号神社 77 77号神社 78 78号神社 79 79号神社 80 80号神社 81 81号神社 82 82号神社 83 83号神社 84 84号神社 85 85号神社 86 86号神社 87 87号神社 88 88号神社 89 89号神社 90 90号神社 91 91号神社 92 92号神社 93 93号神社 94 94号神社 95 95号神社 96 96号神社 97 97号神社 98 98号神社 99 99号神社 100 100号神社

姫路城周辺まち歩きマップ「よってくだん ひめじ」

資料：姫路観光コンベンションビューロー

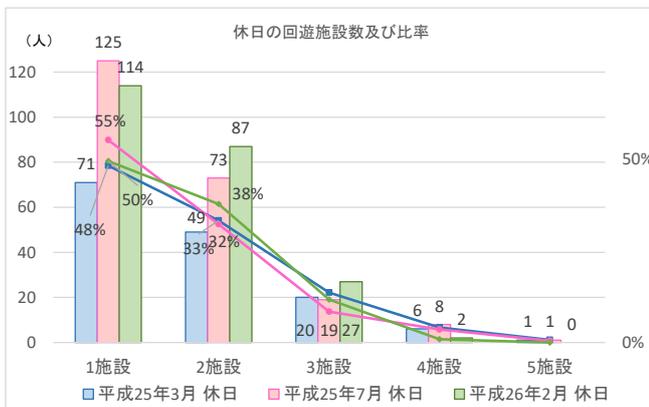
④街なかの回遊性に関する状況

街なかの回遊性を見ると、来街者のうち、1施設のみ利用者は休日では全体の50%前後、平日では全体の45%前後であり、2施設の利用者は休日・平日とも全体の35%前後となっている。3施設以上の利用者は少なく、4施設以上はほとんどいない。

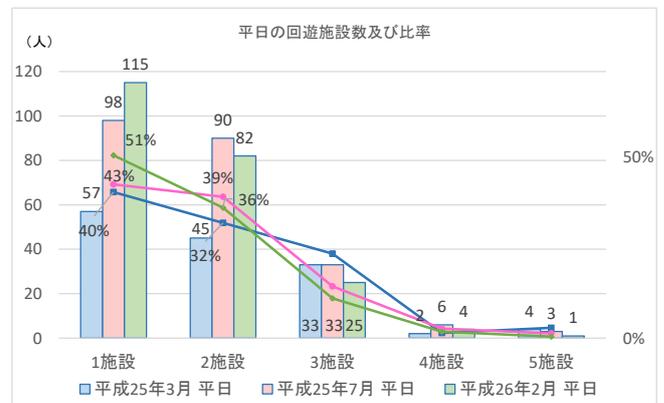
1施設のみ利用者のうち、訪れた施設としては、ピオレ姫路などの駅ビル、山陽百貨店、姫路フォーラス等の姫路駅周辺施設が約50%、ヤマトヤシキや姫路城、イーグレひめじ等の街なかの施設利用者は約10%程度である。2施設以上の利用者においても、ほとんどが姫路駅周辺施設となっている。

また、1・2施設目での姫路駅周辺施設の利用者は、平成25年3月と比較すると以降の調査日では大幅に増加しているが、3施設目以降はほとんど変化がない。

こうした回遊性の低下は、姫路駅周辺での商業施設整備（平成25年4月ピオレ姫路オープン等）により魅力が向上し、増加した姫路駅周辺施設の利用者を街なかまで誘引できていないことが要因であると考えられる。



休日の回遊施設数及び利用者数



平日の回遊施設数及び利用者数

資料：まちなか動線調査

1施設のみ利用の人数及び回遊先の施設

主な回遊施設	休日			平日		
	平成25年3月	平成25年7月	平成26年2月	平成25年3月	平成25年7月	平成26年2月
姫路駅周辺施設	32人(45%)	58人(46%)	49人(43%)	37人(65%)	50人(51%)	53人(46%)
街なか施設	6人(8%)	16人(13%)	8人(7%)	3人(5%)	11人(11%)	12人(10%)
その他	33人(46%)	51人(41%)	57人(50%)	17人(30%)	37人(38%)	50人(43%)
計	71人	125人	114人	57人	98人	115人

※姫路駅周辺施設：ピオレ姫路、山陽百貨店、姫路フォーラス、ボンマルシェ、御幸通り商店街

※街なか施設：ヤマトヤシキ、イーグレひめじ、姫路城

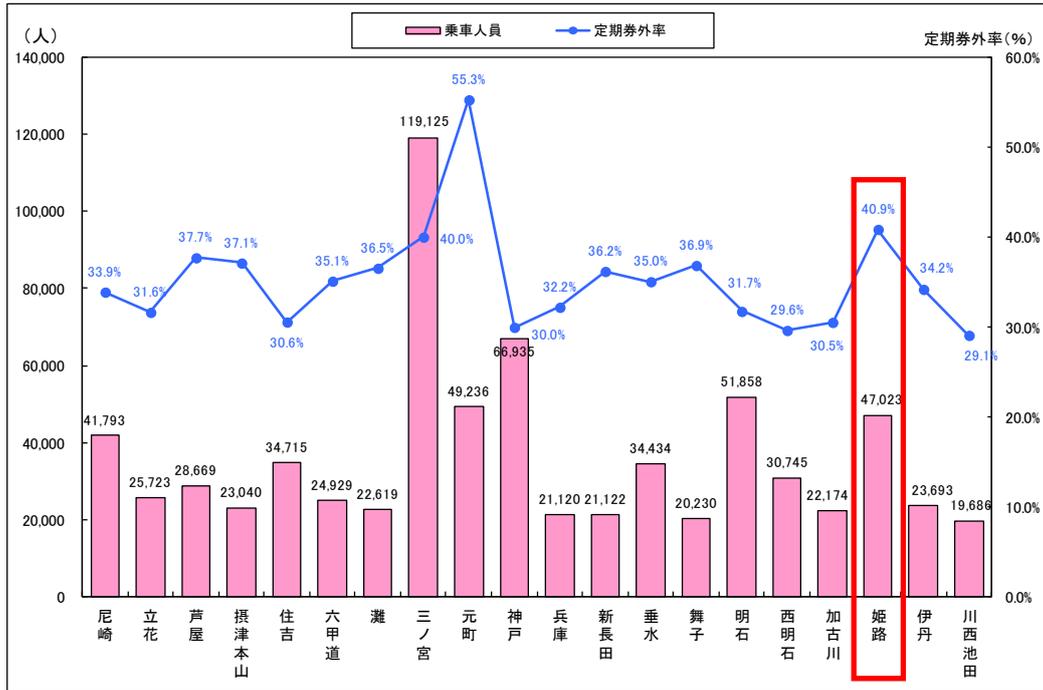
資料：まちなか動線調査

⑤交通に関する状況

1) 兵庫県下有数の乗車人員を有する姫路駅も近年は漸減傾向

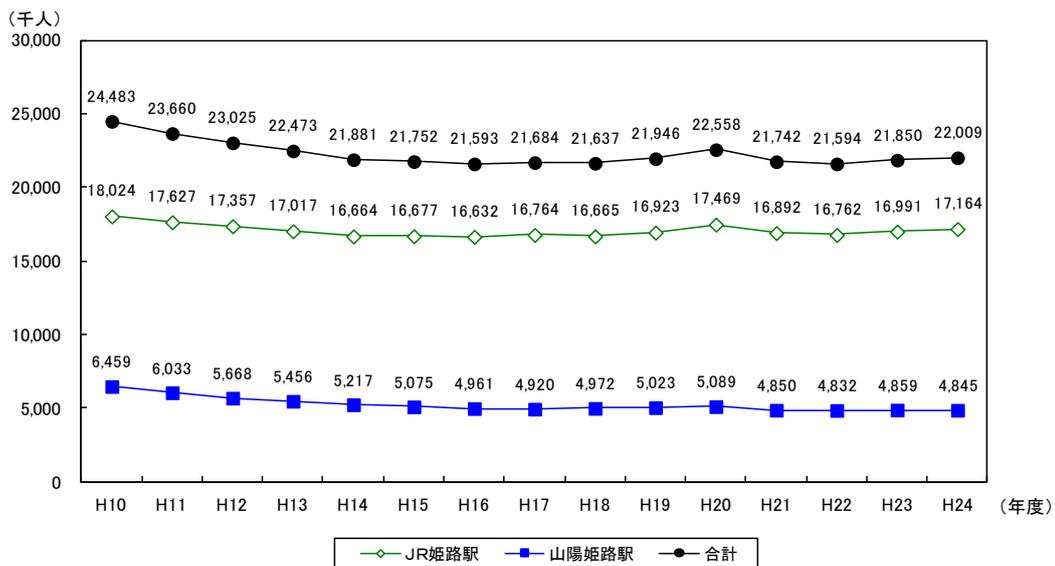
JR 姫路駅の一日平均乗車人員は、兵庫県下の JR 駅では三ノ宮、神戸、明石、元町に次いで 5 番目に多い。また、全乗車人員に対する定期券を利用しない乗車人員の割合は、県下 JR 主要駅の中では元町に次ぐ 2 番目の高さとなっており、観光・買物などの自由目的、業務目的等の利用者比率が高いことがわかる。

一方、姫路駅の利用者数を鉄道駅乗車人員で経年的にみると、JR 姫路駅、山陽電鉄姫路駅ともに減少傾向にあったが、近年は概ね横ばいで推移している。



兵庫県下の主要 JR 駅における一日平均乗車人員と定期券外率（平成 24 年度）

資料：兵庫県統計書（平成 25 年）



JR 及び山陽電鉄姫路駅の年間乗車人員

資料：姫路市統計要覧

2) 路線バスの利用は横ばい、中心市街地を回遊する観光ループバスは回復傾向

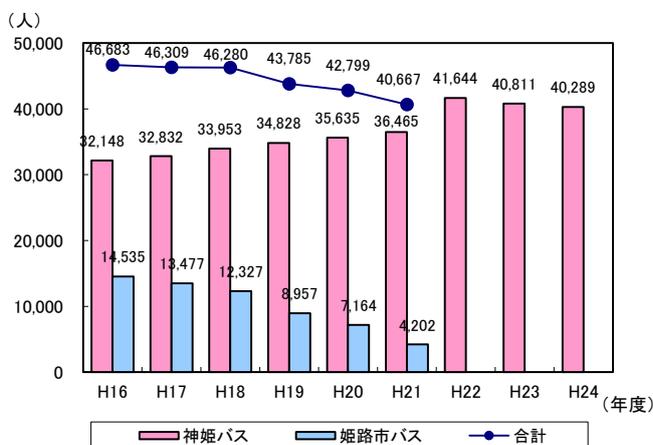
市内の路線バスは、神姫バス、市営バスの2業者によって運行されていたが、平成22年3月に市営バスは神姫バスに移譲された。

バス利用者数は漸減傾向にあったが、事業移譲後は概ね横ばいとなっており、平成24年度の一日あたり平均利用者数は40,289人となっている。

一方、100円で利用できる城周辺観光ループバスが、姫路駅を起点に姫路城内曲輪を周遊し姫路駅に戻るルートで運行しており、運行本数、乗車人員ともに順調に増加してきた。しかし、姫路城大天守保存修理工事の影響もあり、平成22年度に乗車人員が大きく減少しているが、以降、徐々に回復している。

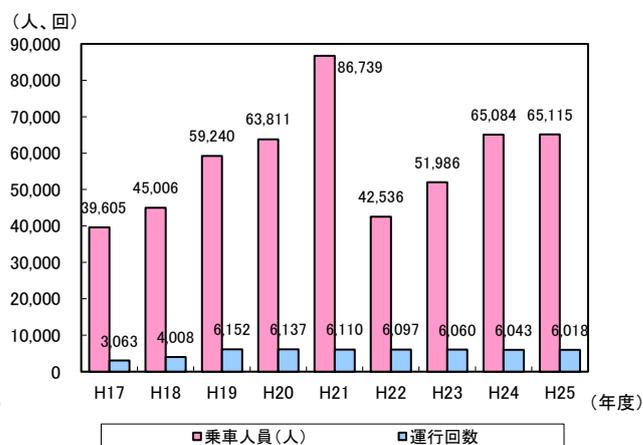


城周辺観光ループバスの運行ルート



姫路市における路線バスの一日常り利用者数

資料：姫路市統計要覧

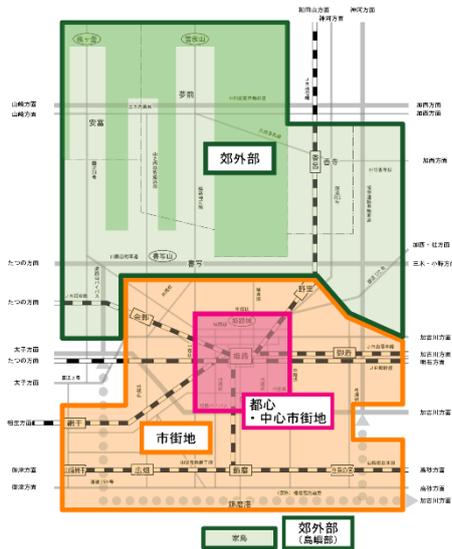


城周辺観光ループバスの運行実績

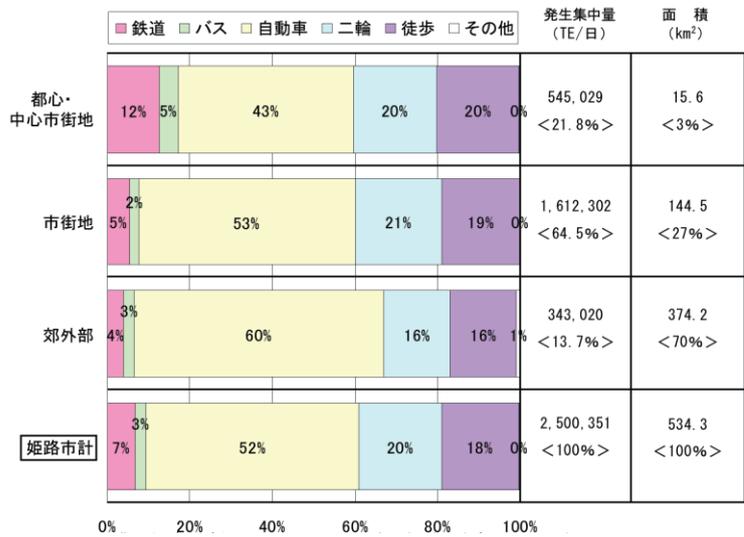
資料：姫路市入込客数、観光・イベントアンケート調査

3) 中心市街地でも自動車への依存度が高い交通特性

都心・中心市街地における代表交通手段分担率は、自動車が43%で最も高く、以下、二輪、徒歩と続いている。市内他地域に比べ、鉄道が12%、バスが5%と公共交通機関の比率が高いものの、自動車の比率が半分近くを占めており、自動車への依存度が高い。また、高密度に交通が発生集中しているため、都心部には大量の自動車交通が流入している。



姫路市の地域分類



地域別の交通手段分担率

資料：播磨都市圏パーソントリップ調査（調査年度：平成18年度）
再掲：前計画

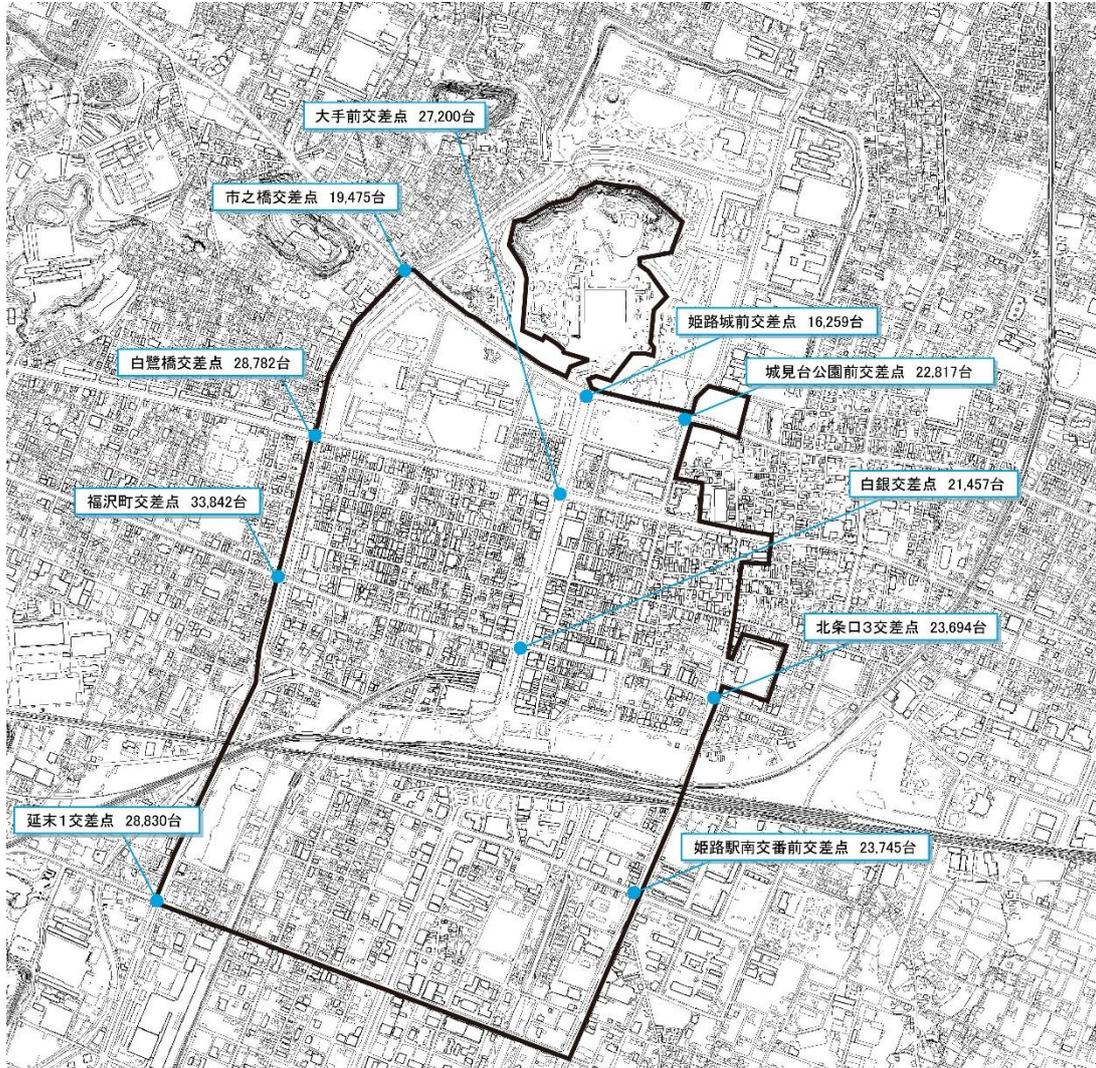
※発生集中量：ある地域から出発するトリップ数（発生量）と、その地域へ到着するトリップ数（集中量）の合計。発生集中量の場合、発地点と着地点の合計であるため、単位はトリップエンド（TE）となる。

※トリップ：人がある目的をもってある地点からある地点へ移動する単位。

※トリップエンド（TE）：1つのトリップの出発地と到着地。

4) 中心市街地の自動車分担率は高いものの、自動車交通量は漸減傾向を示す

中心市街地における代表交通手段分担率は自動車が43%（前頁参照）ではあるものの、主要交差点での自動車交通量は概して漸減傾向にある。この理由としては、内々環状線の整備等による中心市街地での通過交通の減少や、中心市街地を起終点とする交通量の減少等が考えられる。



	調査地点	平成 12 年度	平成 16 年度	平成 20 年度	平成 24 年度
1	白銀交差点	32,540	32,028	30,126	21,457
2	大手前交差点	37,384	36,566	32,049	27,200
3	姫路駅南交番前交差点※	32,613	19,127	19,029	23,745
4	延末1交差点	34,152	33,000	29,651	28,830
5	城見台公園前交差点	28,227	27,096	24,527	22,817
6	北条口3交差点	33,912	29,375	27,949	23,694
7	白鷺橋交差点	32,879	31,293	27,423	28,782
8	福沢町交差点	—	33,712	31,245	33,842
9	市之橋交差点	—	—	—	19,475
10	姫路城南交差点	—	—	—	16,259

観測日時 平成 12 年度：平成 13 年 2 月 21 日（水）曇一時雨
 平成 16 年度：平成 16 年 10 月 27 日（水）曇のち晴れ
 平成 20 年度：平成 20 年 10 月 28 日（火）晴
 平成 24 年度：平成 24 年 10 月 23 日（火）雨のち曇

資料：姫路市統計要覧

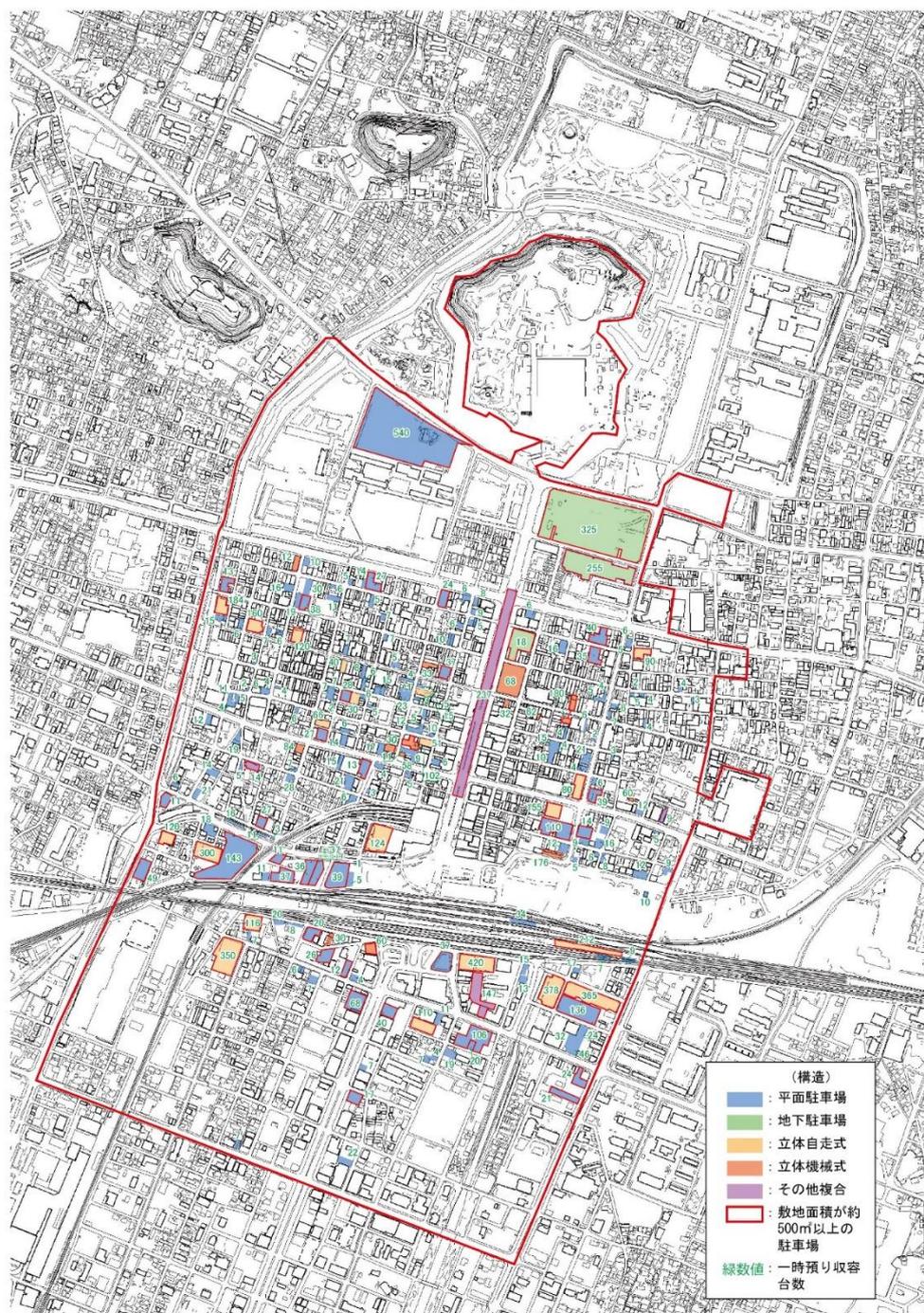
中心市街地の主要交差点での自動車交通量

※姫路駅南交番前交差点では、平成 12 年度から平成 16 年度に 10,000 台以上減少しているが、これは JR 山陽本線等連続立体交差事業に伴い暫定道路になっている影響と考えられる。

5) 中心市街地の駐車場収容台数は約 8,700 台

平成 26 年度調査では、中心市街地内の一時預り駐車場の箇所数、収容台数は 215 箇所、8,666 台となっている。(平成 20 年度調査に比べて、49 箇所、395 台の増加)

駐車場の機能、規模で見ると、姫路城周辺や JR 姫路駅周辺、大手前通り沿道などでは、観光客や中心市街地利用者を主な対象とする収容台数 100 台以上の大規模駐車場が多く存在している。



中心市街地での駐車場整備状況

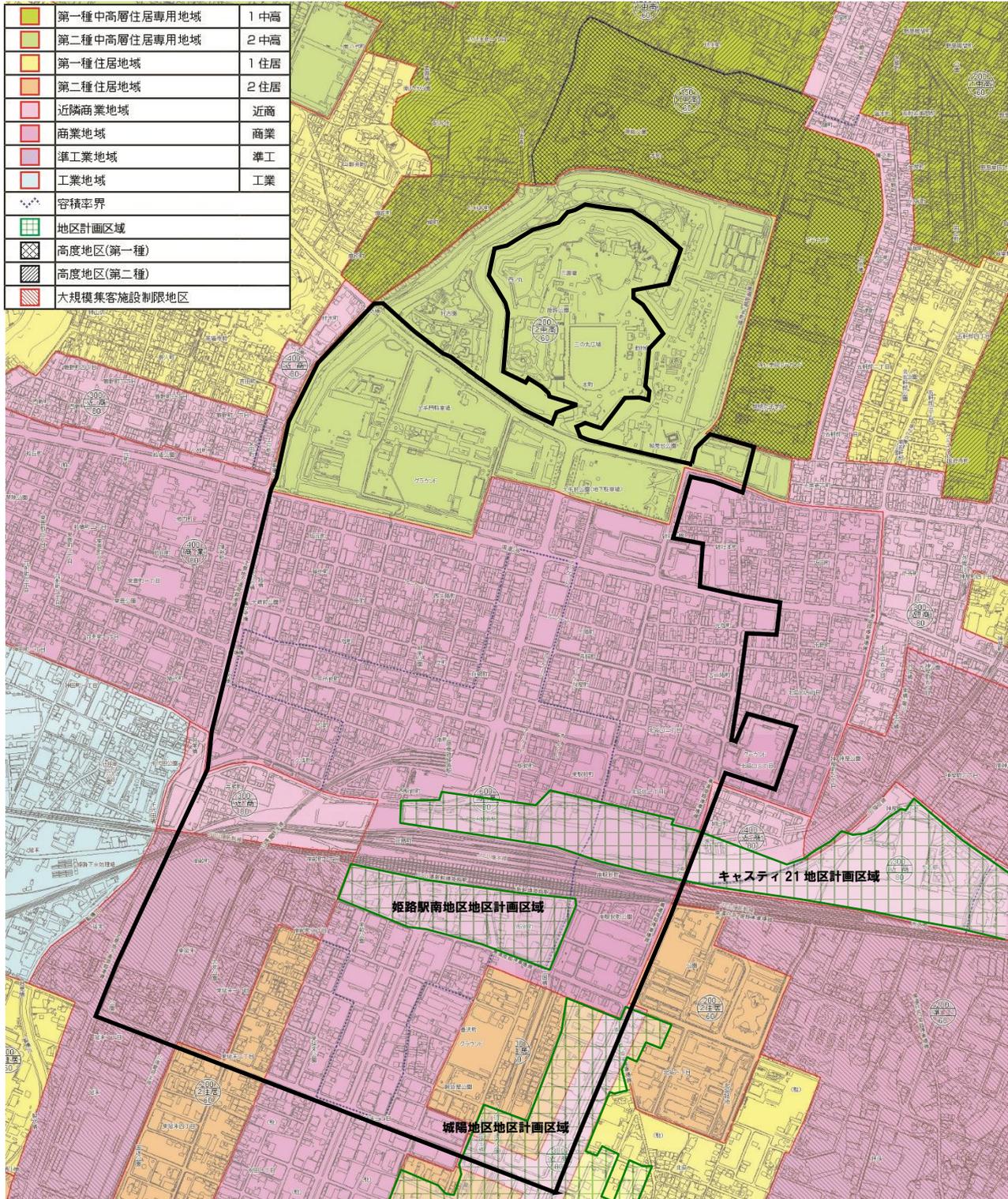
資料：姫路市調査（平成 26 年 9 月）

⑥土地利用に関する状況

1) 中心市街地の大半は商業系用途地域が指定されている

中心市街地では、姫路駅を中心に広範な範囲に商業系用途地域に指定されており、姫路駅周辺及び大手前通り・駅南大路沿道では、容積率が600%に指定されている。商業系地域の北側には中高層住居系、南側には住居系用途地域に指定され、一部には準工業地域も存在する。

また、姫路駅周辺において複数の地区計画が都市計画決定されている。



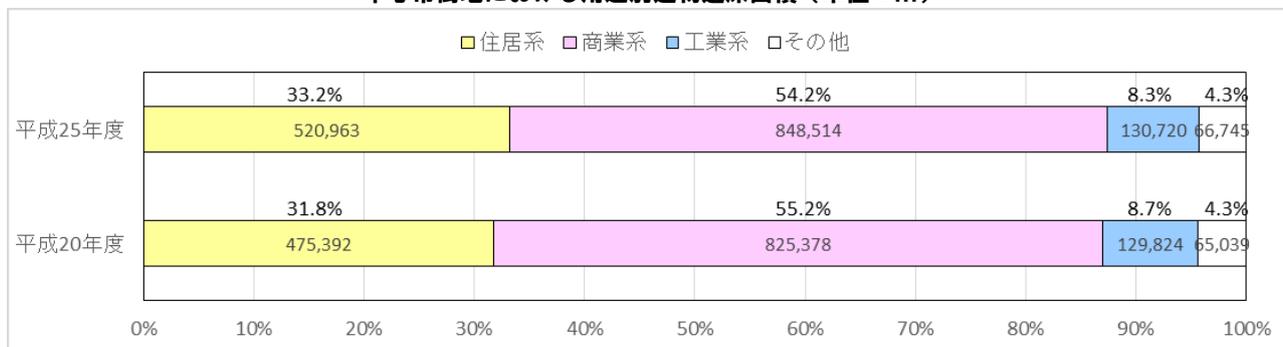
中心市街地における用途地域等指定状況

資料：姫路わが街ガイドホームページ

2) 中心市街地では商業系床面積が微減し、住居系床面積が微増

平成20年度と平成25年度の中心市街地内での用途別建物延床面積を比較すると、商業系の延床面積が23,136㎡増加しているが、構成比では55.2%から54.2%に減少している。一方、住居系については、延床面積、構成比ともに増加(45,571㎡増加、1.4%増加)している。

中心市街地における用途別建物延床面積(単位:㎡)

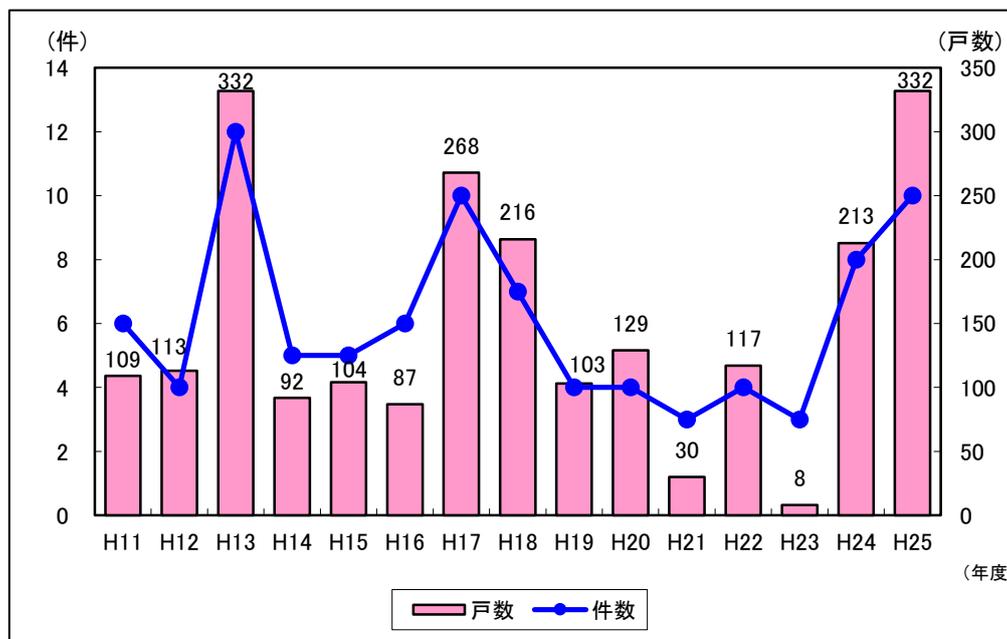


資料：都市計画基礎調査データ

3) 中心市街地では平均150戸/年のペースで共同住宅が供給されている

平成11年度から平成25年度までの共同住宅の建設状況(建築確認申請)を見ると、中心市街地で91件2,253戸、年平均に換算すると6件/年、150戸/年となっている。

平成21年度以降から件数及び戸数が増加傾向にあり、特にJR姫路駅周辺が大きく変わり始める平成24年度以降については、件数及び戸数が大幅に増加している。これは、前計画により中心市街地の魅力が向上し、民間による住宅供給が促進されたためと推察される。

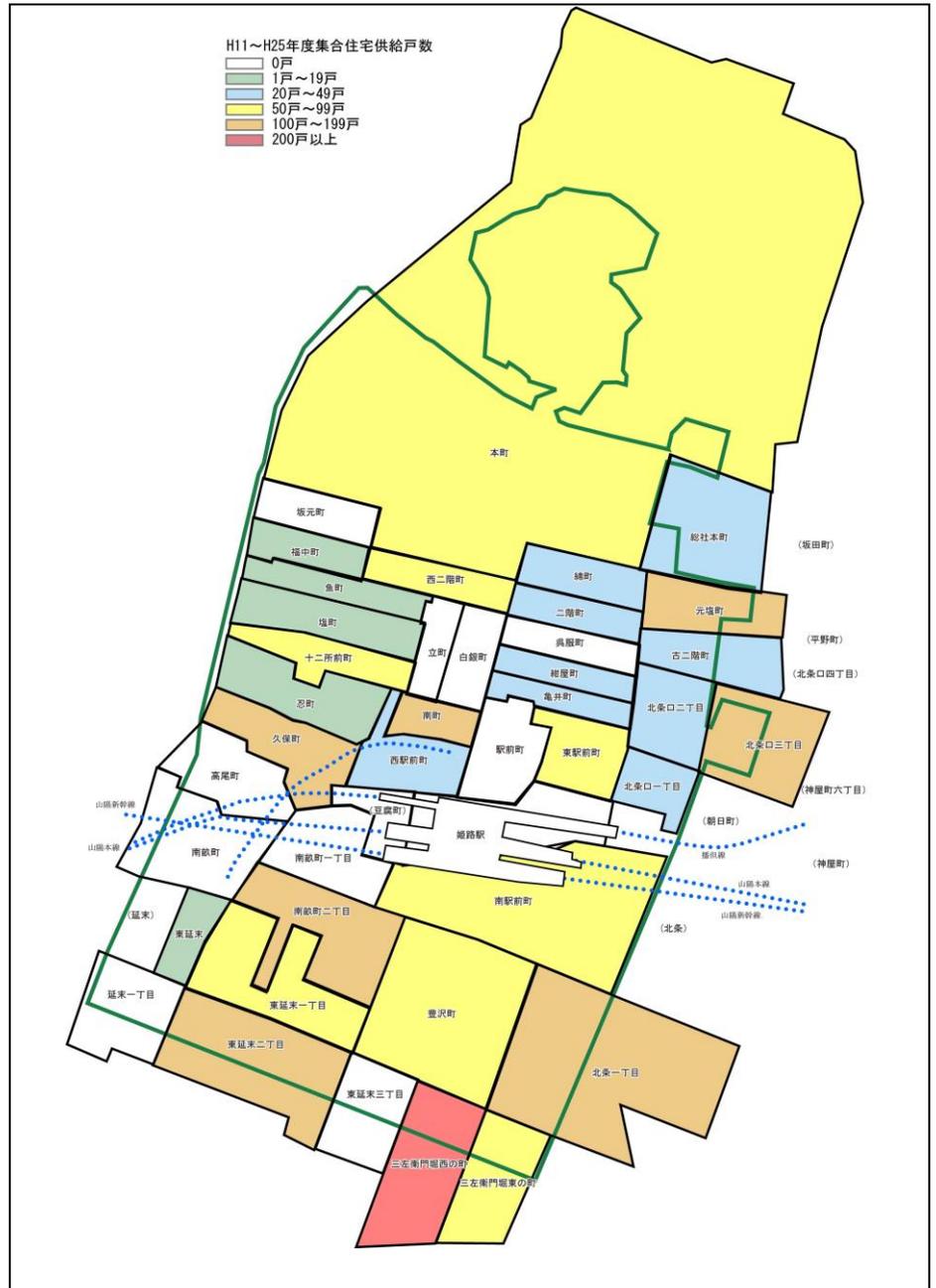


中心市街地での共同住宅建設状況

資料：姫路市資料

また、町別の建設戸数を整理すると右図のようになり、商業業務機能の中心となっている JR 姫路駅を取り巻く区域で建設が行われていることがわかる。

JR 姫路駅の北側と南側では、南側において集合住宅供給が多い。



平成 11 年度～平成 25 年度の新築共同住宅建設戸数（町別）

資料: 姫路市資料

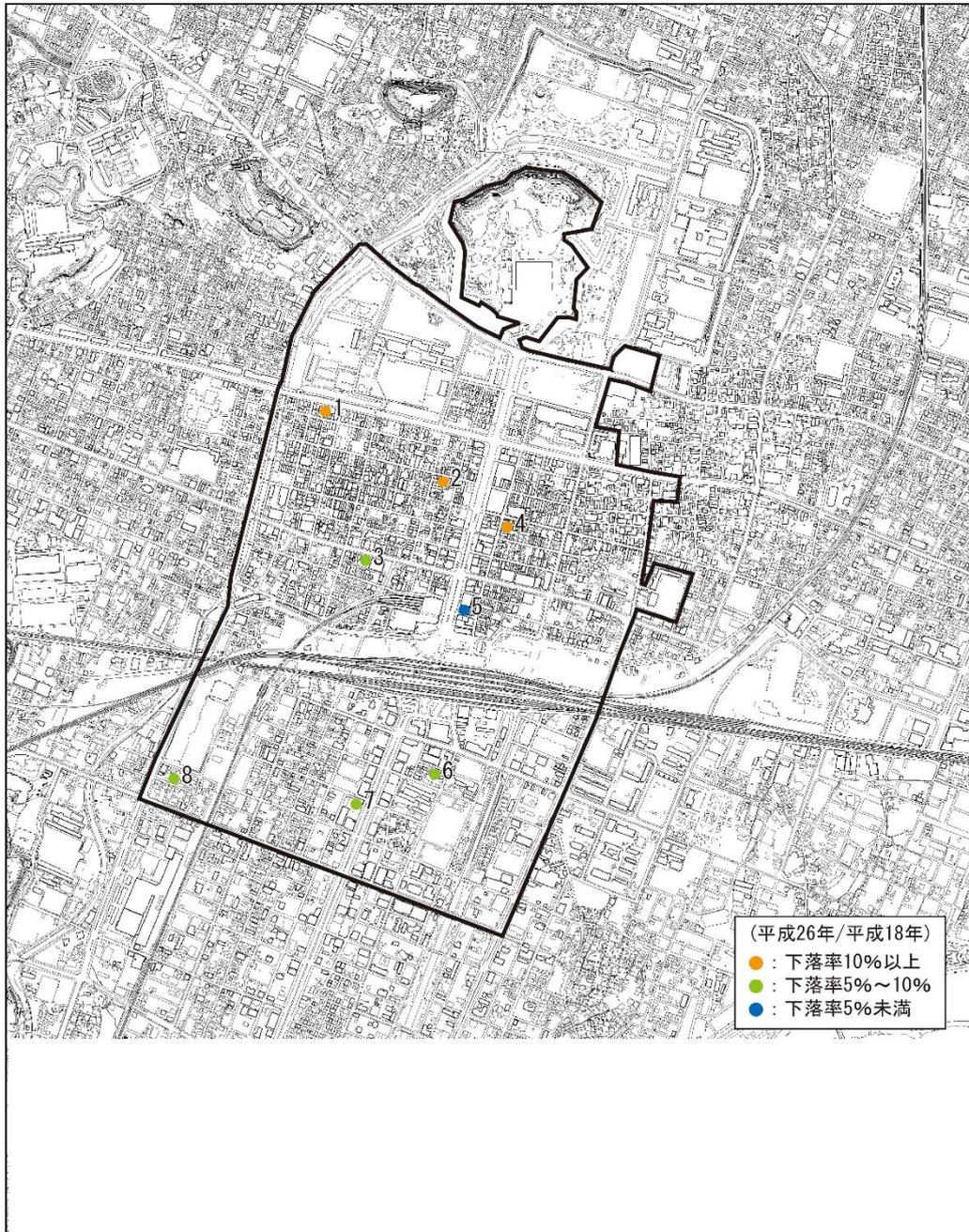
4) 中心市街地の地価は下げ止まり傾向にあるが、郊外と比較すると高い水準にある

地価は下落傾向が続くが、近年では下げ止まりの兆候が見られ、姫路駅に近い地点（駅前町 252 番、忍町 88 番外）では、上昇に転じている。

中心市街地の地価水準は、郊外（数万円～10 万円/㎡）に比べて高い水準にあり、特に姫路駅前の商業地では約 88 万円/㎡となっている。

	所在地	用途地域等	姫路駅からの距離	1㎡当りの価格(円)								H18～26年平均下落率(%/年)	
				平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年		平成26年
1	坂元町96番3外	商業・準防火(80/400)	1,100m	152,000	150,000	150,000	147,000	144,000	141,000	138,000	136,000	-	10.5%
2	西二階町22番	商業・防火(80/400)	700m	160,000	154,000	151,000	148,000	144,000	140,000	137,000	134,000	133,000	16.9%
3	忍町88番外	商業・防火(80/600)	550m	275,000	275,000	275,000	270,000	262,000	257,000	253,000	251,000	255,000	7.3%
4	呉服町32番	商業・防火(80/400)	550m	540,000	532,000	532,000	523,000	499,000	480,000	461,000	441,000	430,000	20.4%
5	駅前町252番	商業・防火(80/600)	200m	900,000	900,000	925,000	910,000	875,000	854,000	845,000	850,000	876,000	2.7%
6	豊沢町129番	商業・防火(80/600)	300m	230,000	230,000	230,000	228,000	224,000	220,000	216,000	214,000	214,000	7.0%
7	東延末1丁目4番	商業・防火(80/600)	450m	460,000	460,000	465,000	461,000	446,000	436,000	428,000	421,000	417,000	9.3%
8	延末1丁目100番	準工(60/200)	1,000m	106,000	104,000	103,000	102,000	99,800	99,000	98,900	98,700	98,500	7.1%

※坂元町96番3外は、H18～25年の下落率



中心市街地の地価公示価格

資料：国土交通省土地総合情報ライブラリーホームページ

5) 播磨地域の中核都市にふさわしい公共公益施設の集積

市民生活に密着した公的なサービス施設としては、山陽百貨店内に駅前市役所があり、営業時間も午後7時30分までと長く、市民生活の利便性向上に寄与している。

国、県、市ほかの施設については、兵庫県姫路総合庁舎、兵庫県旅券事務所姫路出張所（ヤマトヤシキ内）、国際交流センター・男女共同参画推進センター（イーグレひめじ内）、公益財団法人姫路・西はりま地場産業センター等がある。また、国の出先機関、市役所、商工会議所等は中心市街地外縁部に立地している。

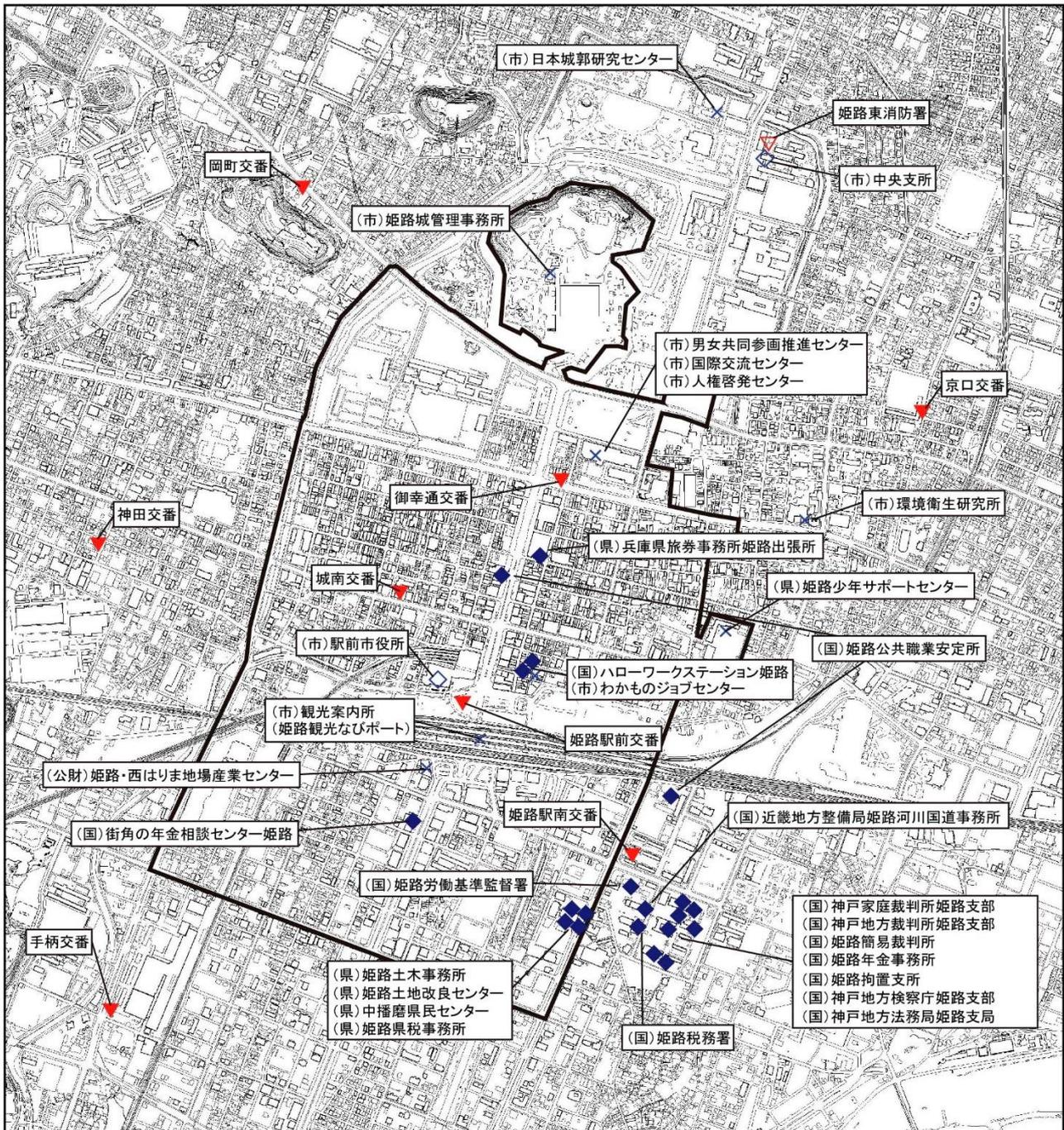
文化、観光、コミュニティ施設については、市民会館、姫路キャスパホール、姫路市観光案内所（姫路観光なびポート）、市民プラザ（イーグレひめじ内）があり、市の集会施設として、城南公民館に加え、平成21年度には城巽公民館が整備された。また、中心市街地外縁部に、姫路市立美術館、姫路文学館、兵庫県立歴史博物館、日本城郭研究センター、城内図書館等が立地している。

教育施設については、姫路聴覚特別支援学校、兵庫県播磨高等学校がある。また、平成21年4月から小中一貫教育推進モデル校として白鷺小学校、白鷺中学校での取組が始まった（白鷺小学校は、城南・城巽の2小学校を廃止し、城南小学校の位置に新設）。なお、これに伴い城巽小学校跡地に姫路市立総合教育センターが整備された。また、中心市街地外縁部に、県立の姫路東・姫路北高等学校、私立の淳心学院、賢明女子学院が立地している。

医療福祉施設については、病院、診療所が多数立地し、障害者福祉施設・老人福祉施設及び保育所・託児所が数ヶ所ある。また、中心市街地外縁部には、独立行政法人国立病院機構姫路医療センター、保健所、中央保健福祉サービスセンター等がある。

このように中心市街地とその周辺部をあわせると本市はもとより播磨地域の中核にふさわしい施設が相当数集積しており、これらの施設の利用者を中心市街地内の商店街等に引き込むよう、イベントとの連携や情報発信を行っていくことが必要と考えられる。

また、中心市街地を居住地として見た場合、少子高齢化が著しいことから、子育て支援や高齢者向け福祉施設の充実、また、住宅地としての活気やにぎわいを取り戻すための街なか居住者のコミュニティ育成や各種の活動に資するような集会施設の充実も必要と考えられる。



(市)日本城郭研究センター

姫路東消防署

岡町交番

(市)中央支所

(市)姫路城管理事務所

(市)男女共同参画推進センター
(市)国際交流センター
(市)人権啓発センター

京口交番

神田交番

御幸通交番

(市)環境衛生研究所

城南交番

(県)兵庫県旅券事務所姫路出張所

(県)姫路少年サポートセンター

(市)駅前市役所

(国)姫路公共職業安定所

(市)観光案内所
(姫路観光ナビポート)

(国)ハローワークステーション姫路
(市)わかものジョブセンター

姫路駅前交番

(公財)姫路・西はりま地場産業センター

(国)近畿地方整備局姫路河川国道事務所

(国)街角の年金相談センター姫路

姫路駅南交番

(国)姫路労働基準監督署

手柄交番

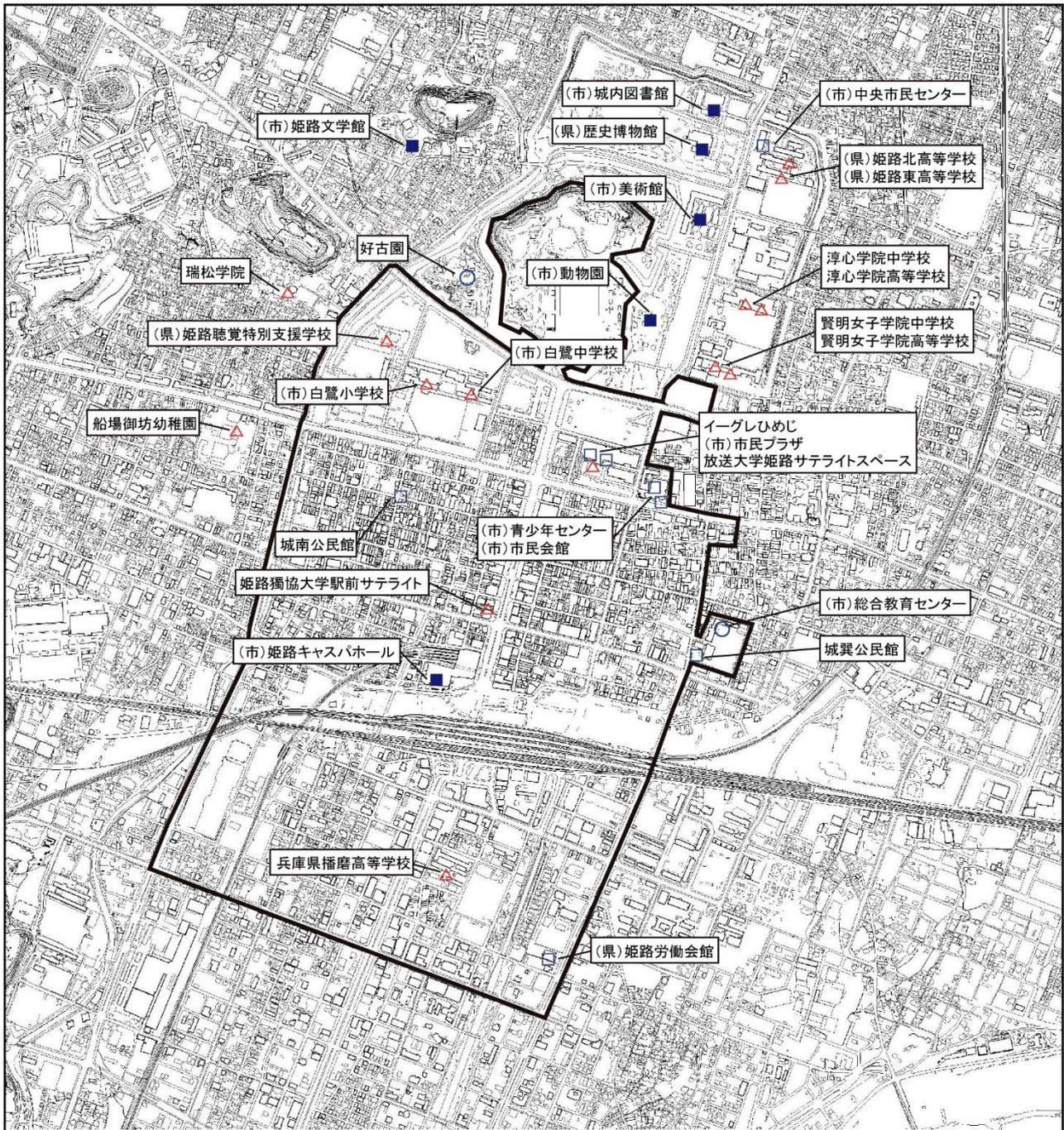
(県)姫路土木事務所
(県)姫路土地改良センター
(県)中播磨県民センター
(県)姫路県税事務所

(国)姫路税務署

(国)神戸家庭裁判所姫路支部
(国)神戸地方裁判所姫路支部
(国)姫路簡易裁判所
(国)姫路年金事務所
(国)姫路拘留支所
(国)神戸地方検察庁姫路支部
(国)神戸地方方法務局姫路支局

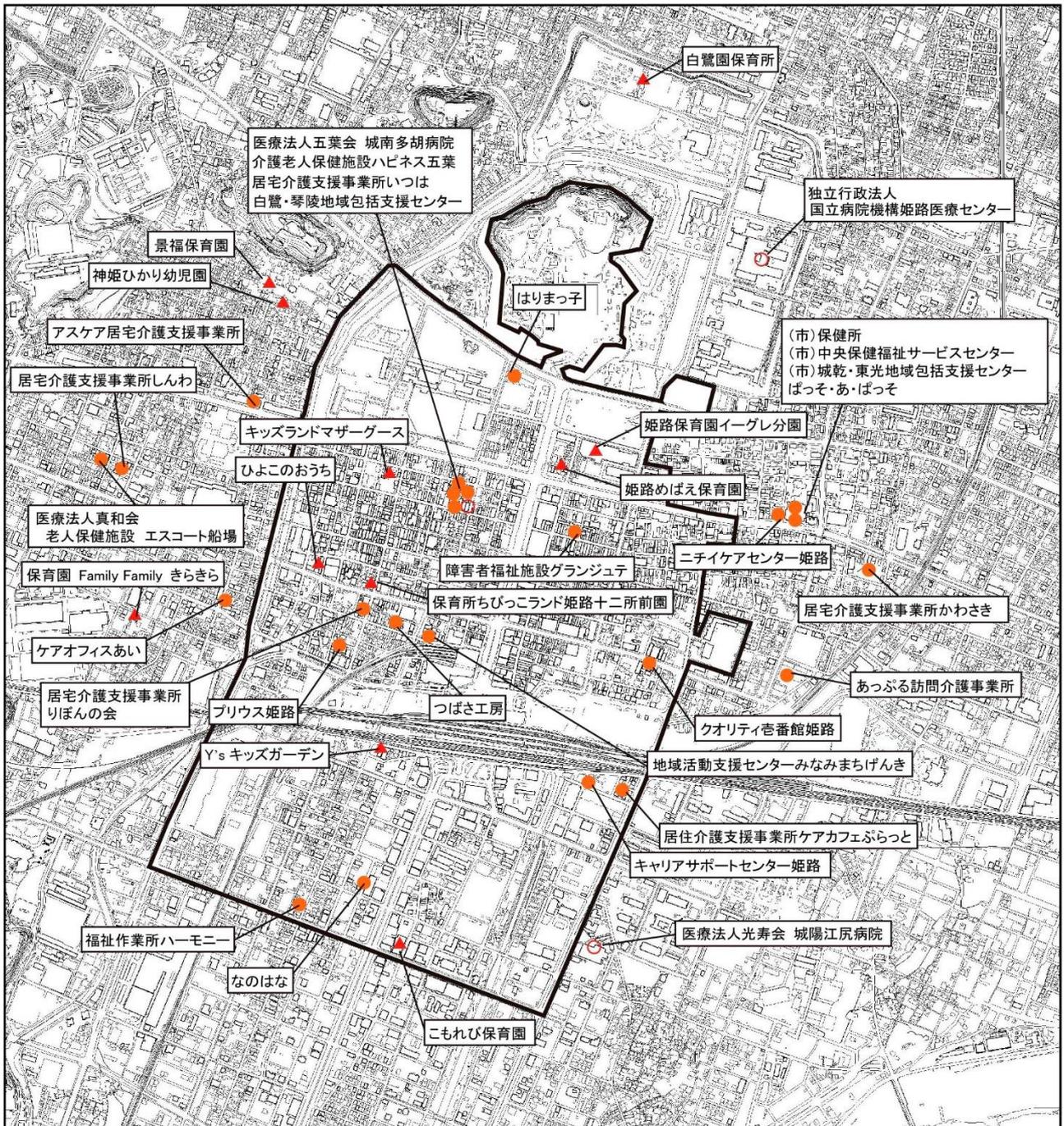
- ▼ 警察署・交番
- ▽ 消防署
- ◆ 国、県の施設
- ◇ 支所
- × その他の施設

行政サービス・その他施設の分布



- | | | |
|---|----------|------------------------------|
| △ | 教育施設 | 【幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・特別支援学校】 |
| ■ | 文化施設 | 【文化施設・美術館・博物館・図書館】 |
| □ | コミュニティ施設 | 【会館・公民館】 |
| ○ | その他施設 | |

教育・文化・コミュニティ施設の分布



- | | | |
|---|---------|---|
| ○ | 病院施設 | 【病院施設】 |
| ● | 福祉施設 | 【保健所・保健福祉サービスセンター・障害者福祉施設・
老人福祉施設・介護福祉施設・地域包括支援センター】 |
| ▲ | 育児・児童施設 | 【保育所・認可外保育施設】 |

医療・福祉関連施設の分布

〔4〕地域住民のニーズ等の把握・分析

（1）中心市街地活性化に関する市民アンケート（平成26年8月）

中心市街地に対する住民の意識を把握するため、中心市街地内居住者、中心市街地外居住者別に市民アンケートを実施した結果を以下に要約する。

- ・対象者：中心市街地内外居住者各 1,500 名（計 3,000 名）（無作為抽出・郵送配布回収）
- ・回収率：中心市街地内居住者 35.1%（527 通）、中心市街地外居住者 34.9%（523 通）
- ・回答者特性：年齢層は 50%以上が 50 代以上で、性別では女性が 60%以上

市民アンケートの回答者特性

	中心市街地内居住者		中心市街地外居住者		合 計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
年 齢						
1) 20 代	32	6.1%	47	9.0%	79	7.5%
2) 30 代	80	15.2%	83	15.9%	163	15.5%
3) 40 代	114	21.6%	89	17.0%	203	19.3%
4) 50 代	91	17.3%	101	19.3%	192	18.3%
5) 60 代	111	21.1%	114	21.8%	225	21.4%
6) 70 代以上	93	17.6%	88	16.8%	181	17.3%
無回答	6	1.1%	1	0.2%	7	0.7%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%
性 別						
1) 男性	205	38.9%	196	37.4%	401	38.2%
2) 女性	317	60.2%	324	62.0%	641	61.0%
無回答	5	0.9%	3	0.6%	8	0.8%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%

①中心市街地外居住者の 50%以上は、月 1 回未満の低い中心市街地来訪頻度

中心市街地外居住者の中心市街地来訪頻度は「月に 1 回くらい（20.1%）」が最も多く、全体の 50%は来訪頻度が月 1 回以下とあまり利用されていないことがわかる。一方、中心市街地内居住者の利用頻度は当然高くなっているが、それでも 20%以上が「月に 2～3 回くらい」以下とあまり利用されていない実態が伺える。

中心市街地への来訪頻度に関する回答集計結果

	中心市街地内居住者		中心市街地外居住者		合 計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) ほぼ毎日	228	43.3%	45	8.6%	273	26.0%
2) 週に 2～3 回くらい	123	23.4%	35	6.7%	158	15.1%
3) 週に 1 回くらい	55	10.4%	61	11.7%	116	11.1%
4) 月に 2～3 回くらい	47	8.9%	92	17.6%	139	13.2%
5) 月に 1 回くらい	38	7.2%	105	20.1%	143	13.6%
6) 2～3 か月に 1 回くらい	15	2.9%	87	16.6%	102	9.7%
7) 半年に 1 回くらい	6	1.1%	44	8.4%	50	4.8%
8) それ以下	8	1.5%	45	8.6%	53	5.0%
無回答	7	1.3%	9	1.7%	16	1.5%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%

最近 5 年間で中心市街地来訪頻度の変化をみると、中心市街地内外居住者ともに「変わらない」が最も多いが、次に多いのは中心市街地内居住者では「増えた(35.5%)」に対して、中心市街地外居住者では「減った(28.7%)」と反対の結果となっており、特に中心市街地外居住者は郊外部や他都市の利用が増えているものと推察される。

最近 5 年間で中心市街地来訪頻度の変化に関する回答集計結果

	中心市街地内居住者		中心市街地外居住者		合 計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) 増えた	187	35.5%	117	22.4%	304	28.9%
2) 減った	63	12.0%	150	28.7%	213	20.3%
3) 変わらない	259	49.1%	250	47.8%	509	48.5%
無回答	18	3.4%	6	1.1%	24	2.3%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%

②中心市街地の来訪は買い物、飲食など自由目的が圧倒的に多い

中心市街地への来訪目的は中心市街地内外居住者ともに「買い物」、「飲食」といった自由目的が圧倒的に多いが、中心市街地内外を比較すると中心市街地外居住者の買い物目的は、中心市街地内居住者に比べて約 19 ポイント低くなっている。

中心市街地への来訪目的に関する回答集計結果（複数回答あり）

	中心市街地内居住者 (527 人中)		中心市街地外居住者 (523 人中)		合 計 (1,050 人中)	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) 買い物	335	63.6%	232	44.4%	567	54.0%
2) 飲食	66	12.5%	78	14.9%	144	13.7%
3) 催事・まつりなど	12	2.3%	31	5.9%	43	4.1%
4) レジャー・娯楽（映画・パチンコ等）	10	1.9%	18	3.4%	28	2.7%
5) 仕事・学校	60	11.4%	45	8.6%	105	10.0%
6) 医療機関や福祉施設等の利用	28	5.3%	46	8.8%	74	7.0%
7) 電車・バスの乗り換え時のみ	25	4.7%	38	7.3%	63	6.0%
8) 他の用事のついでに	21	4.0%	40	7.6%	61	5.8%
9) その他・無回答	42	8.0%	33	6.3%	75	7.1%

③最近 5 年間で中心市街地の魅力は向上傾向で、より魅力を高めるためには商業・飲食施設等の充実や高質な街並み形成を求める声が多い

最近 5 年間で中心市街地が行きたい場所になったかの設問に対しては、肯定的意見（「思う」、「どちらかと言えば思う」）が否定的意見を上回っており、前計画による事業などで中心市街地の魅力が高まったと市民が実感していると考えられる。

一方、より行きたい場所になるために必要な事項としては、中心市街地内外の居住者ともに概ね同じ比率の回答傾向であり、商業、飲食、娯楽などの施設の充実や美しい道路、街並み整備など都市空間面の充実、にぎわいや活気の創出を求める声が多い。したがって、新計画では前計画における高質な都市基盤施設整備を継続しつつ、商業機能の強化、にぎわいや活気創出に向けた取組などを推進することが必要となる。

最近5年間で中心市街地が行きたい場所になったと思うかに関する回答集計結果

	中心市街地内居住者		中心市街地外居住者		合 計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) 思う	145	27.5%	97	18.5%	242	23.0%
2) どちらかと言えば思う	176	33.4%	148	28.3%	324	30.9%
3) どちらとも言えない	127	24.1%	151	28.9%	278	26.5%
4) どちらかと言えば思わない	39	7.4%	66	12.6%	105	10.0%
5) 思わない	28	5.3%	60	11.5%	88	8.4%
無回答	12	2.3%	1	0.2%	13	1.2%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%

中心市街地が行きたい場所になるために必要な事項に関する回答集計結果（複数回答あり）

	中心市街地内居住者 (527人中)		中心市街地外居住者 (523人中)		合 計 (1,050人中)	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) 自分の欲しいものが買える魅力的な商業施設があること	368	69.8%	337	64.4%	705	67.1%
2) 美味しい料理を食べられる飲食店があること	256	48.6%	248	47.4%	504	48.0%
3) 多くの人を楽しめる娯楽施設があること	121	23.0%	133	25.4%	254	24.2%
4) 催事・まつりなどが充実していること	62	11.8%	70	13.4%	132	12.6%
5) 道路や街並みがきれいに整備されていること	230	43.6%	241	46.1%	471	44.9%
6) まちなかの人通りが多く、活気があること	147	27.9%	116	22.2%	263	25.0%
7) 多くの人々との出会いや交流の場があること	72	13.7%	62	11.9%	134	12.8%
8) 最新の流行や情報が入手できること	60	11.4%	59	11.3%	119	11.3%
9) その他	36	6.8%	49	9.4%	85	8.1%

④中心市街地での居留意向は中心市街地内外居住者で大きく異なる

中心市街地での居留意向は中心市街地内外の居住者で大きく異なり、中心市街地内居住者は大多数が「住み続けたい、どちらかと言えば住み続けたい」と回答している一方で、中心市街地外居住者では逆の回答が50%を超えている。

中心市街地での居住指向に関する回答集計結果

	中心市街地内居住者		中心市街地外居住者		合 計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) 住み続けたい／住みたい	324	61.5%	47	9.0%	371	35.3%
2) どちらかと言えば住み続けたい／住みたい	133	25.2%	68	13.0%	201	19.1%
3) どちらとも言えない	50	9.5%	137	26.2%	187	17.8%
4) どちらかと言えば住み続けたくない／住みたくない	14	2.7%	134	25.6%	148	14.1%
5) 住み続けたくない／住みたくない	2	0.4%	133	25.4%	135	12.9%
無回答	4	0.7%	4	0.8%	8	0.8%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%

⑤中心市街地への満足度は一定あるものの、更なるにぎわいづくりの必要性を感じる市民が多い

中心市街地の満足度は中心市街地内外居住者で結果が大きく異なるが、全体を俯瞰すれば満足している割合が高いといえる。その一方で、更なるにぎわいづくりの必要性を回答する意見が中心市街地内外居住者ともに70%～90%程度あり、「満足している」との回答が10%前後であることからわかるように、今後とも中心市街地活性化に取り組むことの重要性を指摘している。

中心市街地でのにぎわいづくりの必要性に関する回答集計結果

	中心市街地内居住者		中心市街地外居住者		合 計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) 必要だと思う	301	57.1%	269	51.4%	570	54.3%
2) どちらかと言えば必要だと思う	139	26.4%	139	26.6%	278	26.5%
3) どちらとも言えない	54	10.3%	83	15.9%	137	13.0%
4) どちらかと言えば必要だと思わない	7	1.3%	18	3.4%	25	2.4%
5) 必要だと思わない	7	1.3%	13	2.5%	20	1.9%
無回答	19	3.6%	1	0.2%	20	1.9%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%

中心市街地の満足度に関する回答集計結果

	中心市街地内居住者		中心市街地外居住者		合 計	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
1) 満足している	60	11.4%	35	6.7%	95	9.1%
2) どちらかと言えば満足している	221	41.9%	132	25.2%	353	33.6%
3) どちらとも言えない	140	26.6%	211	40.3%	351	33.4%
4) どちらかと言えば満足していない	61	11.6%	101	19.3%	162	15.4%
5) 満足していない	37	7.0%	39	7.5%	76	7.2%
無回答	8	1.5%	5	1.0%	13	1.3%
計	527	100.0%	523	100.0%	1,050	100.0%

[参考]

①男女別の中心市街地の満足度に関する調査結果

中心市街地の満足度は女性の方が男性と比較して高くなっている。

男女別の中心市街地の満足度に関する回答集計結果

	男性	女性	合計
1) 満足している	6.0%	10.8%	8.9%
2) どちらかと言えば満足している	33.2%	34.9%	34.2%
3) どちらとも言えない	32.7%	34.5%	33.8%
4) どちらかと言えば満足していない	17.6%	14.4%	15.7%
5) 満足していない	10.5%	5.4%	7.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%

②年代別の中心市街地の満足度に関する調査結果

年代別においては、20代と40代では「満足している」「どちらかと言えば満足している」と回答した人の割合が高い。50代、60代では「満足している」「どちらかと言えば満足している」と回答した人の割合が他の世代に比べて低く、特に50代では「満足していない」「どちらかと言えば満足していない」と回答した人の割合も高くなっている。また、70代以上の世代では、「満足している」「どちらかと言えば満足している」と回答した人の割合が、他の世代と比較して極めて高い結果となっている。

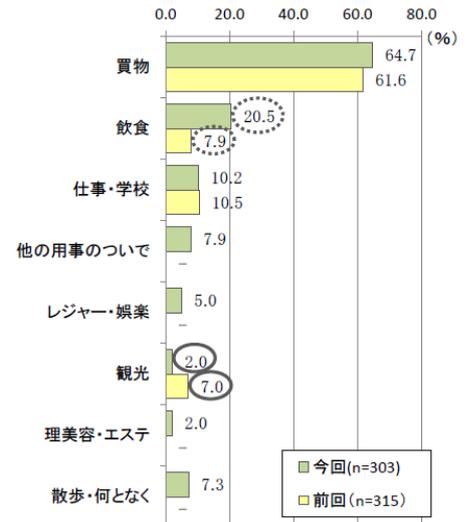
年代別の中心市街地の満足度に関する回答集計結果

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
1) 満足している	6.3%	6.2%	8.4%	5.8%	7.3%	18.5%	8.9%
2) どちらかと言えば満足している	36.7%	34.6%	37.4%	33.3%	31.0%	33.7%	34.2%
3) どちらとも言えない	43.1%	33.3%	32.5%	32.3%	38.8%	28.1%	34.0%
4) どちらかと言えば満足していない	6.3%	17.9%	15.3%	19.6%	15.1%	14.1%	15.5%
5) 満足していない	7.6%	8.0%	6.4%	9.0%	7.8%	5.6%	7.4%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 来街者調査（平成 24 年 9 月 23 日～24 日）

姫路市まちなか商店街店舗調査（平成 24 年度、姫路市）による、以下のアンケート調査等を踏まえ地域住民のニーズ等を整理する。

- ・対象者：中心市街地内 5 地点（姫路駅前商店街、みゆき通り、二階町・大手前通り交差点付近、小溝筋北、小溝筋南）の通行者のうち、15 歳以上の男女
- ・サンプル数：計 303 サンプル



来街目的

①街なかでの消費行動として「飲食」が増加

来街目的は「買物（64.7%）」が最も多く、次いで「飲食」、「仕事・学校」と続く。前回調査（平成 19 年）と比較すると、「飲食」が 10 ポイント以上増加しており、街なかでの消費行動が変化しつつあると考えられる。一方で「観光」目的が前回の 7.0%から 2.0%へと減少するなど、姫路城大天守保存修理工事による観光来訪魅力の低下等が影響していると考えられる。

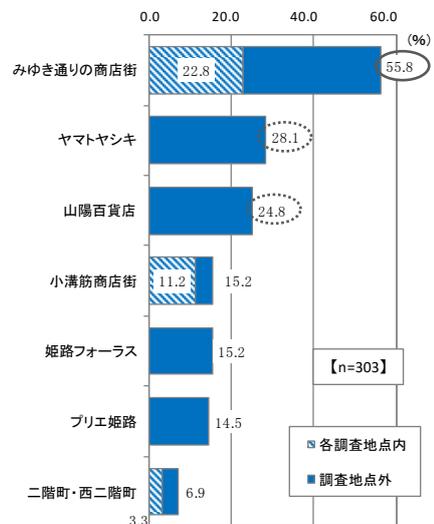
②滞在時間が減少

平均滞在時間は 129 分であり、平成 19 年に実施した同様の調査（147.1 分）と比較して大きく減少している。来街目的別では、「買物」が 125.7 分であり、「飲食」が 160.8 分となっている。滞在時間が最も長いのは「観光」の 295 分であり、他に来街目的としては 2.0%と少ないが「理美容・エステ」が 280 分と続く。

来街者の立ち寄り施設では、「みゆき通りの商店街」が最も多く 55.8%、次いで「ヤマトヤシキ」が 28.1%となっている。なお、新駅ビル（ピオレ姫路）のオープンが平成 25 年 4 月 30 日であることから、本調査対象には含まれていない。

		回答者数(件)	(分)
全体		303	129.0
地点別	姫路駅前商店街	77	152.1
	みゆき通り	76	130.3
	二階町と大手前通り交差点付近	76	126.9
	小溝筋【北・南】	74	105.7
来街目的別	買物	196	125.7
	飲食	62	160.8
	レジャー・娯楽	15	236.0
	観光	6	295.0
	理美容・エステ	6	280.0
	仕事・学校	31	160.3
	他の用事について	24	79.8
	散歩・何となく	22	130.0

平均滞在時間



※各商店街・施設の割合のうち、調査地点内で得た割合を網掛けしている

来街者立ち寄り施設

(3) 広域消費動向調査

○姫路市内主婦層：平成 24 年 10 月 17 日～11 月 17 日

- ・対象者：姫路市内に居住する世帯で主に普段買物をする人
- ・調査方法：市内の公民館でアンケートを配布・回収
- ・サンプル数：配布 1,130 サンプル、回収 1,017 サンプル

○近隣市町主婦層：平成 24 年 9 月 8 日～9 月 25 日

- ・対象者：姫路市近隣 4 市 2 町内に居住する世帯で主に普段買物をする人
(加古川市、赤穂市、高砂市、たつの市、福崎町、太子町)
- ・調査方法：留置自記式
- ・サンプル数：配布 240 サンプル、回収 240 サンプル

○若年層／社会人・大学生：平成 24 年 11 月 1 日～11 月 22 日

- ・対象者：姫路市内の企業・大学に通勤・通学している 16～29 歳の男女個人
- ・調査方法：市内に所属する企業・大学でアンケートを配布・回収
- ・サンプル数：配布 533 サンプル、回収 488 サンプル

神戸・大阪へ出向く機会が増えた理由として、主婦層・若年層とも、「店がたくさんある」、「センスが良い」、「街がおしゃれである」、「買物が楽しい」が上位を占めるなど、商品のセンスや街全体の雰囲気が高い評価を受けている。

一方、郊外型ショッピングセンターへ出向く機会が増えた理由は、「車で行きやすい」が高く、次いで「店がたくさんある」、「商品がたくさんある」、「価格が安い」などが続く。

また、若年層では中心市街地の利用機会が「減った」が 17%を占めており、「街にこれといった魅力がない (39.8%)」、「いつ行っても同じである」が大きな理由となっている。

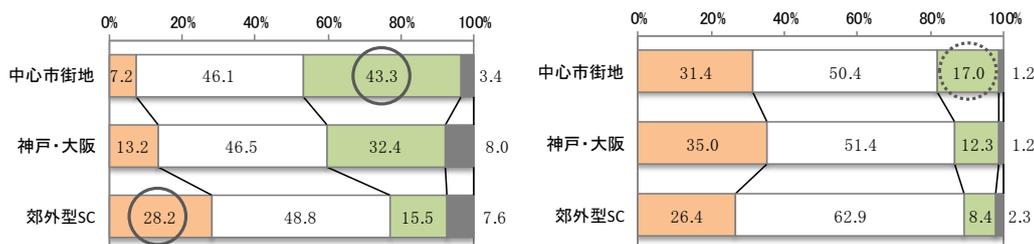
神戸・大阪／郊外型ショッピングセンターの利用機会が増加した理由

		店がたくさんある	商品がたくさんある	価格が安い	センスが良い	流行に敏感である	品質が良い	街がおしゃれである	車で行きやすい	買物以外の魅力がある	贈答品に適した店がある	買物が楽しい	バーゲンが多い	営業時間が長い	接客がよい	イベント・催事が多い	交通の便がよくなった	仕事先が近くなった	新しい施設ができた	その他
神戸・大阪	主婦層(n=165)	52.1	47.9	17.0	44.8	21.8	9.7	43.0	—	30.9	7.3	36.4	12.7	8.5	3.6	7.9	15.2	0.6	8.5	6.7
	若年層(n=171)	80.7	63.2	14.0	46.8	32.2	22.8	49.1	—	33.3	9.9	46.2	14.0	11.1	6.4	14.0	10.5	5.8	8.2	9.4
郊外型SC	主婦層(n=354)	54.0	54.2	32.8	8.5	6.8	4.0	—	78.2	16.9	4.5	22.3	15.3	18.4	3.1	3.1	9.6	1.4	—	3.4
	若年層(n=129)	52.7	48.1	41.1	7.8	8.5	6.2	—	68.2	11.6	2.3	17.8	11.6	9.3	0.8	0.8	8.5	3.1	—	8.5

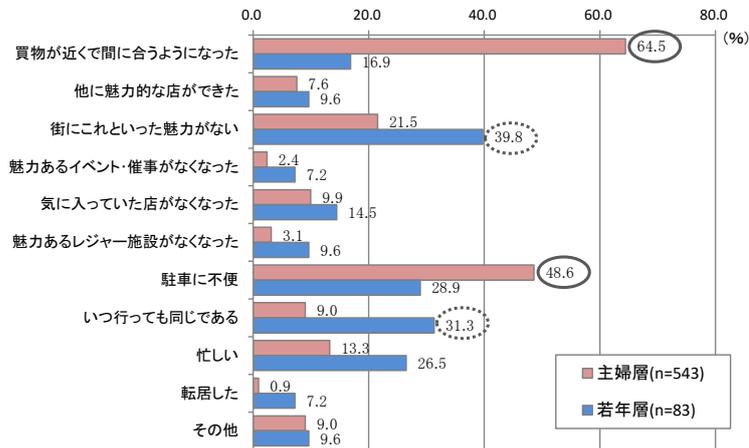
■ 増えた □ 変わらない □ 減った ■ 不明

〈主婦層〉[n=1257]

〈若年層〉[n=488]



中心市街地等の利用機会 (主婦層、若年層)



中心市街地を利用する機会が減少した理由

(4) 商店街店舗調査 (平成 24 年 10 月 19 日～11 月 7 日)

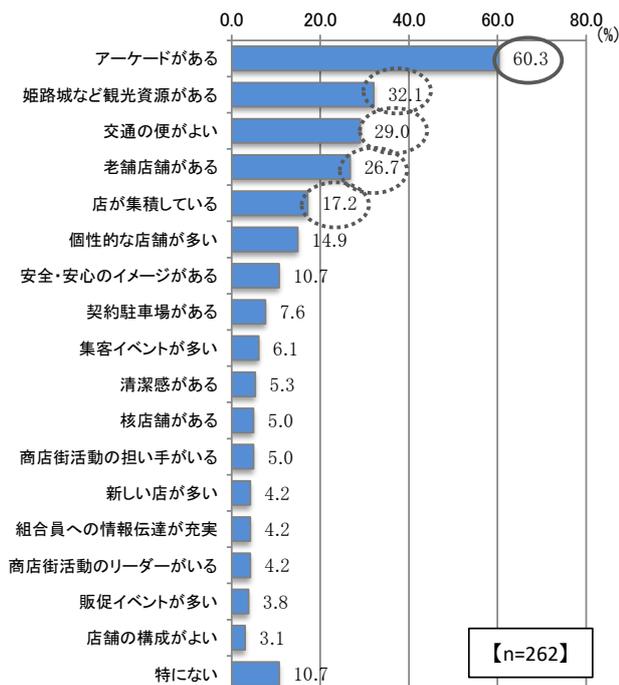
- ・対象者：姫路市中心市街地内にある商店街等に参加する組合員
- ・調査方法：アンケートを配布・回収
- ・サンプル数：配布 638 サンプル、回収 262 サンプル

① 姫路城などの観光資源があるものの活気がなく空き店舗が目立つ商店街

組合員による商店街の魅力として、「アーケードがある」(60.3%) が最も多く、以下、「姫路城など観光資源がある」、「交通の便がよい」、「老舗店舗がある」、「店が集積している」が続く。

一方、商店街の問題点・改善点として、「空き店舗が目立つ」(39.3%) が最も多く、以下、「活気がない」、「閉店時間が早い」、「ベンチ・休憩所・トイレが少ない」、「核店舗がない(集客施設が少ない)」が続く。

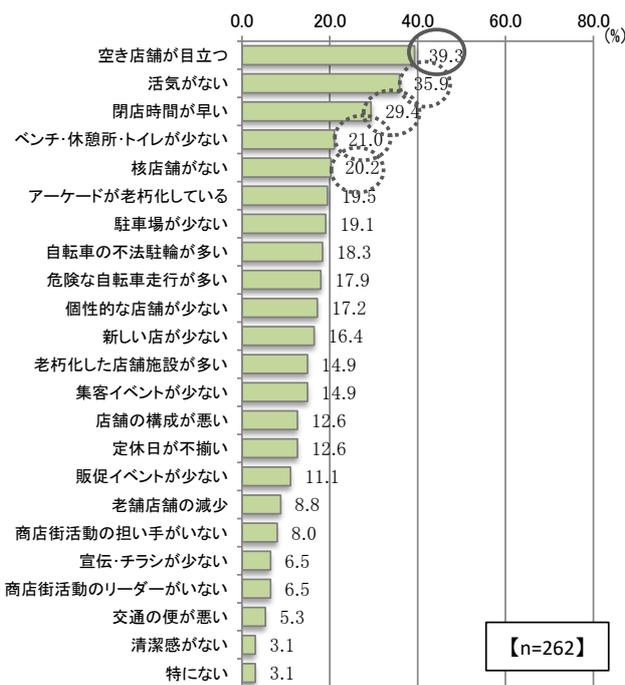
■魅力的なところ(複数回答)



※3%未満は省略

組合員による商店街の魅力

■問題点・改善点(複数回答)



※3%未満は省略

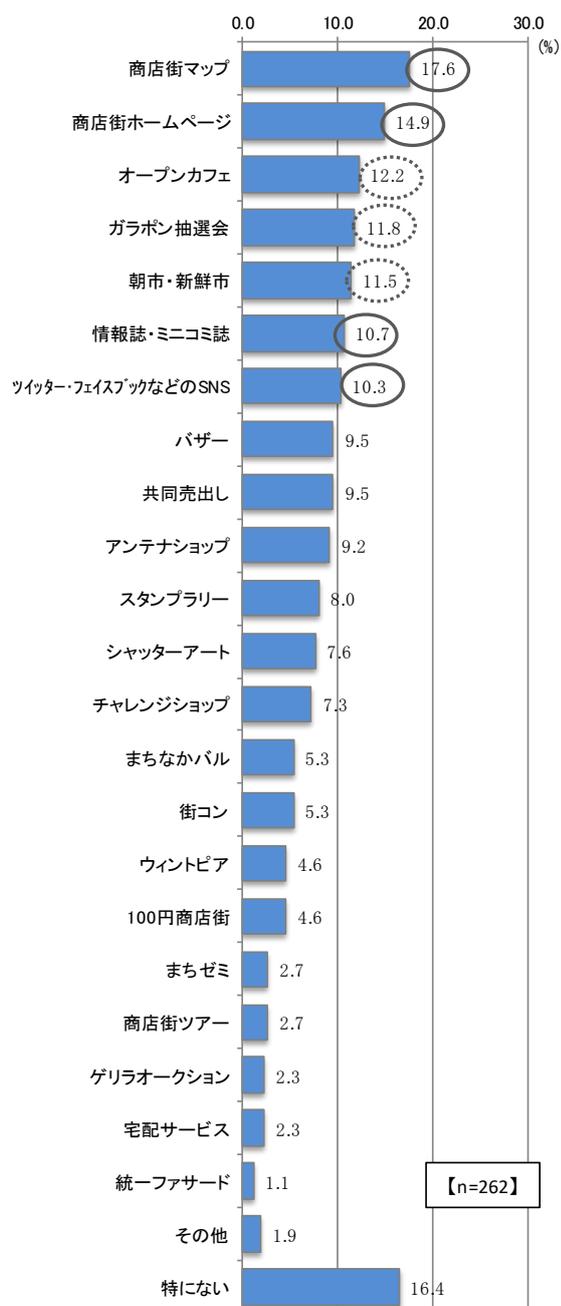
組合員による商店街の問題点・改善点

②商店街として情報発信の強化が重要

商店街に取り組んでほしい事業では、「商店街マップ（17.6%）」「商店街ホームページ」「情報誌・ミニコミ誌」「ツイッター・フェイスブックなどのSNS」などが上位にあがるなど、商店街の情報発信強化が重要との意見が多い。

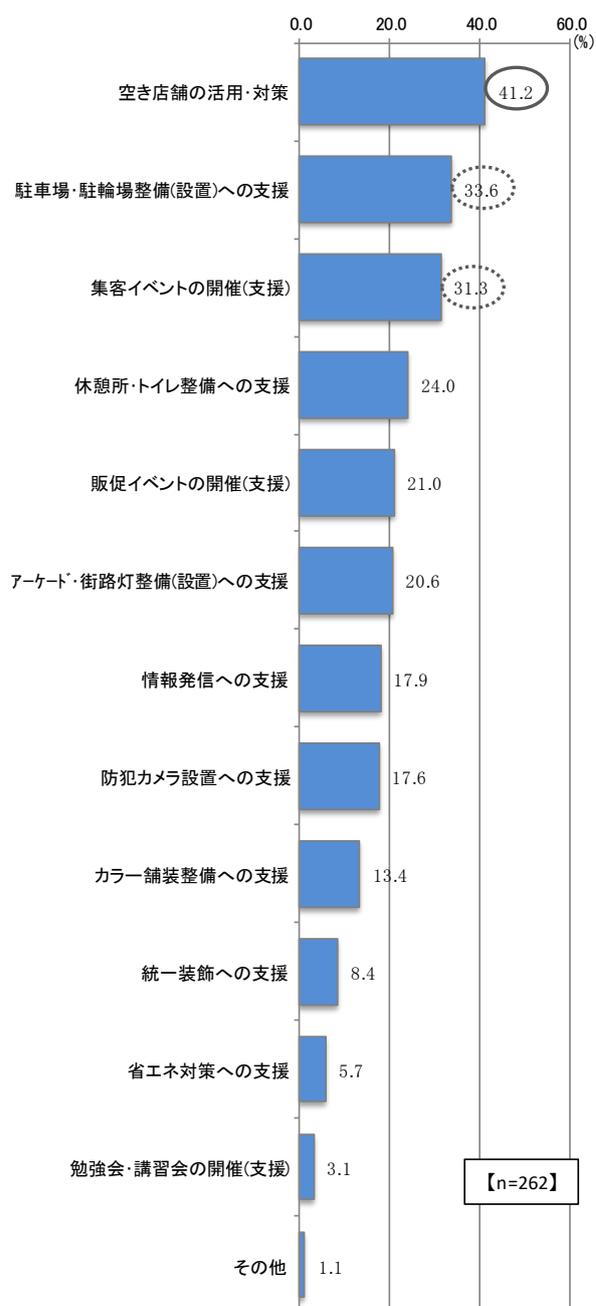
一方、行政に希望する支援事業としては、「空き店舗の活用・対策（41.2%）」が最も多く、次いで、「駐車場・駐輪場整備（設置）への支援」、「集客イベントの開催（支援）」がほぼ並んでいる。

■商店街に取り組んでほしい事業（複数回答）



商店街で取り組んでほしい事業

■行政に希望する支援事業（複数回答）



行政に希望する支援事業

〔5〕中心市街地の課題

（1）これからのまちづくりと中心市街地が果たす役割

①まちづくりにおいて考慮すべき社会・経済潮流

○わが国における人口減少・少子高齢社会の到来

- ・わが国では、既に人口減少・少子高齢社会を迎えており、人口減少等による活力の低下が懸念されている。また、様々なライフステージ、ライフスタイルに応じて居住地を選択する傾向が強まっている。
- ・本市は鉄道で1時間圏内に神戸・大阪などの魅力的で求心力のある大都市が位置していることから、県庁所在地など独立した圏域に立地する同規模他都市と比較して、中心市街地の魅力低下による来訪者の減少やにぎわいの喪失等に直結し、その影響も大きくなる可能性が高い。さらに、居住者の減少はさらなる都市機能の低下・人口減といった負のスパイラルへと発展する恐れもある。
- ・このような潮流に対して、まちづくりにおいては、都市機能の集積をはじめ歴史的・文化的資源等の活用によってまちの魅力を競い合う「都市間競争」に打ち勝つことが必要となる。
- ・人口減少等に伴うまちづくりに対する公共投資縮減も予測され、既存ストックの活用や「選択と集中」による投資を視野に入れたまちづくりが必要となっている。

○都市の特性に応じたまちの活性化

- ・今日の人口減少・少子高齢社会においては、都市間競争に加え自らの強みや特性をより強化することにより、人々を引きつける都市戦略が重要となる。
- ・また、地方都市圏ではその中核となる都市と近隣市町が連携した取組の必要性が議論されており、本市が国に提言し制度化に貢献した「連携中枢都市」制度が、平成27年度より本格実施される。
- ・平成26年度に連携中枢都市のモデル都市となった本市には、圏域全体の経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化、圏域全体の生活関連機能サービスの向上の3つの役割を果たすことが求められている。特に経済成長のけん引に関しては、圏域の市町と関係団体が協力して「播磨圏域経済成長戦略」を策定し、①「はりま・ものづくり力」の強化、②「エコトピアはりま」の推進、③「はりま地域ブランド」の確立、④「はりまグランドツーリズム」の展開、⑤「魅せるはりま」MICEの推進の5つの活性化の柱に沿った施策・事業を展開することとしている。
- ・このような動向を勘案すると、本市のまちづくりの視点として、「産業都市」、「国際観光都市」としての強みや特性の強化により、圏域全体の経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化などの役割を果たすことが重要であり、前述の都市戦略実現に資する個別計画の策定・実効が肝要となる。

○地球温暖化をはじめとする環境問題への対応

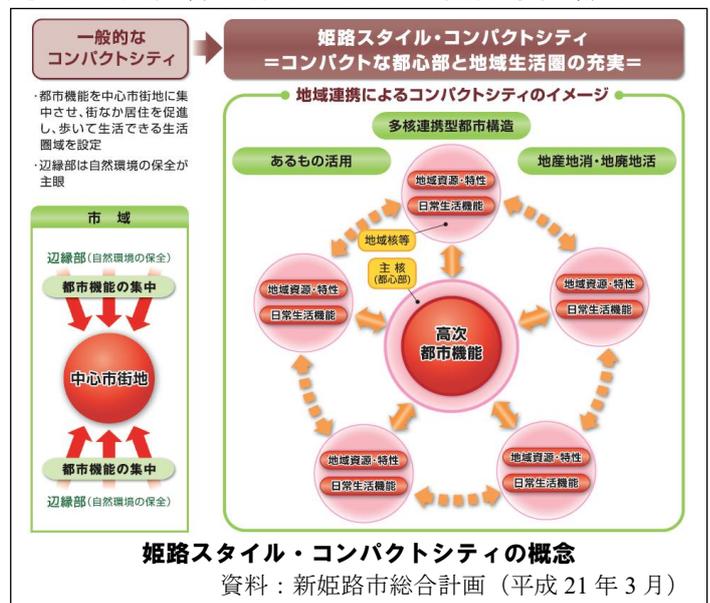
- ・地球環境問題への対応は人類共通の課題であり、環境負荷の小さな都市の実現や交通システムの再編が求められている。

②これからのまちづくりの方向性 ～コンパクトなまちづくり～

- ・ 前述の社会・経済潮流に対応し、持続的なまちづくりを推進するためには、都市機能の無秩序な拡散に歯止めをかけ、多様な都市機能がコンパクトに集積した、多くの人にとって暮らしやすいまちづくりを推進することが求められている。
- ・ この「舞台」としては、商業、業務、居住等の都市機能が集積し、長い歴史の中で文化・伝統を育み、「まちの顔」といえる中心市街地が最もふさわしい場所といえる。
- ・ しかし、わが国の中心市街地の多くでは、各種都市機能の郊外移転・拡散、居住人口の減少など衰退が進行しており、活性化を重点的に推進することが急務である。

(2)「まちの顔」として、「都市戦略の実現」に大きな役割を果たす中心市街地

- ・ 本市では、姫路市総合計画「ふるさと・ひめじプラン 2020」（平成 21 年 3 月策定）において、コンパクトで充実した各地域生活圏と高次都市機能を有する都心部が有機的に連携・交流する、「姫路スタイル・コンパクトシティ」の構築を目標としている。
- ・ 中でも、「姫路スタイル・コンパクトシティ」の主核として位置付けられている都心部の中心市街地は、姫路城の城下町から戦災復興を経て発展してきた地域であり、商業・業務をはじめとする県下有数の都市機能集積を有するとともに、JR4 路線（山陽新幹線、山陽本線、播但線、姫新線）や私鉄が乗り入れ、バスターミナルとなっている交通の一大結節点である姫路駅、また、市民の心の拠り所であり、国内外から多くの人々が訪れる世界文化遺産・姫路城という二つの核を擁している。
- ・ これら二つの核について、姫路駅は現在周辺整備が進められ、JR 山陽本線等の高架化や関連街路の整備などにより、姫路駅を挟んだ南北交通の円滑化や南北市街地の土地利用の一体化が期待されるとともに、新駅ビル、北駅前広場整備が完了し、にぎわいの創出や街なかの活性化が期待される。一方、姫路城は昭和 39 年に完了した解体復元工事、いわゆる「昭和の大修理」以来、45 年振りとなる大修理が平成 21 年度から始まり、平成 26 年度末に完成する予定となっている。
- ・ 中心市街地は、本市のみならず、播磨地域の経済的、社会的な中心的役割を果たし、「まちの顔」としての重要な役割を担っており、大きく生まれ変わろうとしている「駅」と「城」を二つの核として、今後とも高次都市機能の向上や国際観光都市にふさわしいまちづくりの推進等により活性化を図っていく必要がある。
- ・ 中心市街地の活性化による魅力の増大は、本市の都市戦略であるものづくりを中心とした「産業都市」としての機能強化においても、従業者の従業地選択、魅力的な居住・消費環境の創出による継続的な雇用確保などに資するものであり、中心市街地の活性化は本市および播磨圏域の活性化等に不可欠といっても過言ではない。



(3) 中心市街地の課題の整理

以上のように、中心市街地は「まちの顔」としての重要な役割を担っているが、現況データ等の把握、市民等の意向調査の分析からは、その役割が低下しつつあることが伺える。そこで、前計画の検証や現況データ等の把握、市民等の意向調査によって明らかになった課題について、整理を行うこととする。

①前計画でのハード事業完了を最大のチャンスとし、引き続き来訪者数の増加に向けた取組の強化が必要である

本市及び周辺都市では、他都市と同様に郊外部への大規模小売店舗等の立地により、中心市街地の商業が衰退傾向にある。また、本市は神戸・大阪まで電車で1時間圏内に位置するため、両都市への若年層の消費流出が増加しており、市全体の小売販売額も減少傾向にある。この点については、姫路市まちなか商店街店舗調査により、本市中心市街地にはこれといった魅力がなく、いつ行っても同じ、一方、神戸・大阪は楽しく買物できて商品のセンスや街全体の雰囲気がいよといった結果が得られている。

このように、中心市街地の商業を取り巻く環境が厳しさを増す要因として、郊外や他都市に対する相対的な商業魅力の低下が挙げられるが、一方で絶対的な商業魅力も低下傾向にあると考えられる。ただし、上記調査時点では姫路駅周辺商業施設（ピオレ姫路等）がオープンしておらず、現在では商業魅力に対する意識が変化している可能性もある。また、平成26年度末には前計画での姫路城大天守保存修理工事、大手前通り（十二所前線以南）、姫路駅北駅前広場等整備事業が完了し高質なストックが創出されることで、来訪者の増加が期待される。加えて、今後も来訪者の増加に向けて姫路駅周辺での新規集客施設整備（キャストィ21コアゾーン、イベントゾーン等）が計画されている。こうしたことから、新計画でも前計画でのハード事業完了を最大のチャンスとし、引き続き来訪者の増加に向けた取組の強化が必要と考えられる。

その他、前計画により街なかまでの公共交通によるアクセス性や利便性が高まっていることから、来訪者増加に向けた自転車利用環境整備などの移動環境の向上が必要になると考えられる。

②商店街の活性化や街なかの魅力づくりにより、増加した来訪者を街なかまで誘引し、にぎわいの向上を図る取組の推進が必要である

姫路城大天守保存修理工事により姫路城を中心とする観光客は大幅に減少したが、修理期間中ならでの学習機会を創出するなどにより、回復基調にある。さらに、修理完了後の平成27年度以降は、大幅な観光客の増加が期待できる。

しかしながら、姫路城の曲輪から発展した中心市街地には、姫路城以外にも多数の歴史・文化資源が存在しているにもかかわらず、これらの資源の発掘や整備、情報発信等が十分ではなく、観光と商業機能の連携も十分でない。このため、姫路城登閣者の街なか回遊状況に関する調査結果が示すように、観光客は姫路城等の目的地のみを訪れて中心市街地を素通りする傾向が見受けられるなど、観光集客をまちの活性化に十分活用できていない現状がある。

また、姫路市まちなか商店街店舗調査から明らかになったように、商店街については、姫路城などの魅力的な観光資源がある一方で、空き店舗が目立つ点や活気のなさ等によりにぎわいが不足している点、商店街マップや SNS（ツイッター・フェイスブック等）を利用した情報発信の強化を望む声大きい。

こうしたことから、商店街の活性化や魅力づくり、観光と一体となった情報発信の強化等により、増加した来訪者を街なかまで誘引するとともににぎわいを創出することが必要になると考えられる。

③まちなかの多様な魅力を相対的に高めるなど、まちなかの活力向上の源泉となる居住者の増加に向けた継続的な取組が必要である

本市の中心市街地は、商業をはじめとする都市機能が集積し、播磨地方の中で最も公共交通が発達するなど生活利便性の高い地域であり、平成 21 年から平成 26 年の間に居住人口が約 5%（約 420 人）増加している。

これは、前計画において都市基盤、都市福利施設整備、公共交通の改善などのハード事業と合わせて、小中一貫教育推進モデル校の開設等による付加価値の増大を図り、街なか居住の魅力を高めたことや、コンパクトで生活利便性の高い中心市街地での居住魅力の高まり、地価の下落等が背景にあると考えられる。

居住者の増加は、まちなかの活力の源泉となり、街なかの活性化、観光や商業等における交流人口の増加につながるため、魅力ある居住環境の整備を図るなど、街なか居住の推進によるにぎわいと活力のあるまちづくりを展開していく必要がある。

こうしたことから、前計画で整備された高質なストック等を活用するとともに、まちなかの多様な魅力を高めるなど、まちなかの活力向上の源泉となる居住者の増加に向けて継続した取組が必要になると考えられる。

④タウン・エリアマネジメントを実現するための仕組みづくりが必要である

前計画では、街なかでのにぎわいや回遊性の創出のためのソフト事業が予定どおりの内容・頻度で実施できず、姫路駅周辺での商業施設整備等により増加した来訪者を街なかまで十分に誘引できなかった。

また、来訪者を街なかまで誘引するためには、商店街の活性化や魅力づくりに加え、観光と一体となった情報発信の強化等が重要であるが、行政などが主導となった取組では限界があることから、市民や事業者などが自ら課題を認識・共有し、活性化等に取り組むタウン・エリアマネジメントの導入が望まれる。その他、まちなかの活力の源泉となる居住者の増加については、まちなかの多様な魅力を高めるとともに、人と人のつながり等も重要となる。

なお、前計画ではソフト事業の主体や事業そのものが必ずしも十分に機能していなかったが、一方で、まちづくりへの市民の関わりについては、前計画によって創出された姫路駅北駅前広場等での公共空間活用に向け市民の積極的なまちづくりへの参画が見られるなど、市民（利用者）レベルでまちなかの活性化を考えようとする自主的な取組が始まっている。

こうしたことから、新計画においては、これらの動きをうまく取り入れながら、ま

ちづくりの最前線で市民が主役となって躍動できる仕組み・体制づくりを目指し、タウン・エリアマネジメントを視野に入れたソフト事業の実施とともに、まちづくりの担い手の育成が必要と考えられる。

〔6〕 中心市街地活性化の基本的な方針

(1) 中心市街地活性化の考え方

本市の中心市街地の活性化に向けては、中心市街地の課題を踏まえ、前計画で創出した姫路駅周辺や姫路城などの高質なストックを活かし、街なかの「にぎわい」と「活力」の増大を図っていくことで、「人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下^{まち}」を目指すこととし、これを基本的なテーマとして設定する。

その実現に向け、居住環境の充実や、姫路城を核とした観光集客とともに、観光や商業における回遊性を増す施策などを展開することによって、多くの人々が暮らし、国内外の人々が訪れ、多様な目的で集い、楽しく歩くことができるまちづくりを進める。

中心市街地の課題

前計画でのハード事業完了を最大のチャンスとし、引き続き来訪者数の増加に向けた取組の強化が必要である

商店街の活性化や街なかの魅力づくりにより、増加した来訪者を街なかまで誘引し、にぎわいの向上を図る取組の推進が必要である

まちの多様な魅力を相対的に高めるなど、まちの活力向上の源泉となる居住者の増加に向けた継続的な取組が必要である

タウン・エリアマネジメントを実現するための仕組みづくりが必要である

中心市街地活性化の基本テーマ

人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下^{まち}

～高質なストックを活かした、街なかの「にぎわい」と「活力」の増大～

基本テーマ実現に向けた4つの基本的な方針

行きたい城下^{まち}

国内外の人々が訪れるまちづくり

- ➡ 街なかでの新たな魅力創出
- ➡ 城・駅周辺施設整備により増加する来訪者を街なかまで誘引する仕掛けづくり
- ➡ バスなどの公共交通の利便性向上及び自転車利用環境整備など、移動環境の向上

にぎわう城下^{まち}

人々が集い、回遊するまちづくり

- ➡ タウンマネージャーをはじめ、新たな担い手の育成、個店の魅力を高めるための事業の展開
- ➡ ランドオーナー会議をはじめ、その他関係団体との連携による商店街の再構築等

住みたい城下^{まち}

人々が暮らしたくなるまちづくり

- ➡ 商店街の魅力向上、前計画で創出した高質なストック等の官民連携による利活用などを通じた付加価値の増大（高付加価値化）

市民が主役の城下^{まち}

市民が躍動できるまちづくり

- ➡ タウン・エリアマネジメントを視野に入れたソフト事業の実施
- ➡ まちづくりの担い手の育成